

官報

號外

大正十四年二月二十日 金曜日

内閣印刷局

第五十回 衆議院議事速記第十六號

大正十四年二月十九日(木曜日)午後一時二十五分開議

議事日程 第十五號

大正十四年二月十九日

午後一時開議

第一 海上衝突豫防法中改正法律案
(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 米穀法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 米穀需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 義務教育普及助成ニ關スル建議案(山口政二君提出)

第五 獸醫師法ノ制定ニ關スル建議案(服部英明君提出)

第六 社會教育局設置ニ關スル建議案(樋口秀雄君提出)

第七 社會教育振興ニ關スル建議案(青木精一君提出)

第八 國定教科書ノ翻刻並販賣ノ改善ニ關スル建議案(樋口秀雄君提出)

第九 大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(清水留三郎君外四名提出)

第十 航空行政中央統一機關設置ニ關スル建議案(長岡外史君提出)

第十一 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(佐々木春作君外四名提出)

第十二 男子用通常禮服ニ關スル建議案(菊池謙二郎君提出)

第十三 肥料政策確立ニ關スル建議案(齋藤藤四郎君外四名提出)

第十四 國防會議設置ニ關スル建議案(蟻川五郎君提出)

第十五 鹽ノ賠償價格均衡ニ關スル建議案(土井權大君外一名提出)

第十六 療養理想村補助ニ關スル建議案(木槍三四郎君提出)

第十七 瀧川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案(木槍三四郎君提出)

第十八 猿投神社昇格ニ關スル建議案(岡本實太郎君提出)

第十九 山田豐岡間鐵道速成ニ關スル建議案(齋藤隆夫君外二名提出)

第二十 青少年訓練實施ニ關スル建議案(田中萬逸君提出)

第二十一 日本銀行ノ納付金制度ニ關スル建議案(前田房之助君提出)

第二十二 實業補習教育振興ニ關スル建議案(竹原樸一君外一名提出)

第二十三 國有林野所在府縣市町村ニ對シ交付金下付ニ關スル建議案(八田宗吉君外二名提出)

第二十四 二見港三田間鐵道速成ニ關スル建議案(多木久米次郎君外一名提出)

第二十五 金鷲勸業年金令改正實施ニ關スル建議案(土井權大君提出)

第二十六 京都市ニ國立音樂學校設置ニ關スル建議案(森田茂君提出)

第二十七 滋賀縣ニ水產講習所設置ニ關スル建議案(平井光三郎君提出)

第二十八 高等師範學校設置ニ關スル建議案(柳仲次郎君外六名提出)

第二十九 農業教育改善ニ關スル建議案(湛府庸一君提出)

第三十 遠信鐵道速成ニ關スル建議案(樋口秀雄君外三名提出)

第三十一 國防會議設置ニ關スル建議案(長岡外史君提出)

第三十二 鶴岡市ニ高等師範學校設置ニ關スル建議案(齋藤眞三郎君提出)

第三十三 女子高等教育ノ振興ニ關スル建議案(内ヶ崎作三郎君提出)

第三十四 農村振興ニ關スル建議案(荒川五郎君外十五名提出)

第三十五 農村振興ニ關スル決議案(床次竹二郎君外十四名提出)

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一議員ノ異動ノ如シ

千葉縣第六區選出議員關和知君死去セラレタリ

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

大正十一年度歲入歳出總決算

大正十一年度各特別會計歳入歳出決算

大正十一年度歳入歳出決算検査報告

治安維持法案

(以上二月十八日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

法律事務取扱ニ關スル法律案

提出者 關 直彦君 砂田 重政君

手代木隆吉君 佐々木文一君

柏田 忠一君

會計士法案

提出者 高木益太郎君 黒住 成章君

砂田 重政君

(以上二月十七日提出)

公娼制度制限ニ關スル法律案

提出者 松山常次郎君

(以上二月十八日提出)

借家人ノ利益保護ニ關スル建議案

提出者 廣瀬 徳藏君 清瀬 一郎君

吉津 度君 作間 耕逸君

中島 守利君

琵琶湖ヲ中心トスル國立公園設置ニ關スル建議案

提出者 兼松實太郎君 藤澤萬九郎君

高井 商二君

(以上二月十七日提出)

瀬戸内海ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案

提出者 山下 谷次君 嶋居 哲君

廣島濱田間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 吉田 眞策君

生計調査ニ關スル建議案

提出者 加藤 綱一君

日南鐵道東部線速成ニ關スル建議案

提出者 山道 襄一君

酒田觀音寺及眞室川間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 熊谷 直太君 西澤 定吉君

高橋龍次郎君 西方 利馬君

佐々木春作君

今泉坂町間鐵道起點變更ニ關スル建議案

提出者 石塚 三郎君 松井 郡治君

關矢 孫一君 大竹 謙治君

加藤 知正君

鳥柄長尾間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者 加藤十四郎君

(以上二月十九日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲ニ掲載ス)

一去年十七日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

畜産組合法中改正法律案外一件委員

菅村 太事君 信太儀右衛門君

澤田 利吉君 谷原 公君

志波安一郎君 松實喜代太君

志賀和多利君 宮島幹之助君

小橋藻三衛君

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案委員

田中 萬逸君 金澤安之助君

神田 正雄君 永田善三郎君

柏田 忠一君 長峰 與一君

來栖 七郎君 藤田 包助君

平井光三郎君

鐵道敷設法中改正法律案外三件委員

田中 善立君 橋本 喜造君

齋藤 隆夫君 福田 四郎君

中野 實君 加藤十四郎君

田口 文次君 則元 由唐君

倉元 要一君 大園榮三郎君

工藤十三雄君 中村 清造君

木暮 正一君 大竹 謙治君

木戸 豐吉君 今里準太郎君

井上 利八君 土居 通憲君

教育ノ機會均等ニ關スル建議案外六件委員

樋口 秀雄君 石川安次郎君

山根 儀重君 土生 彰君

藤井 敬慎君 鹽田 團平君

禱 苗代君 志村清右衛門君

安保 庸三君 森 肇君

浦野 謙朗君 山口 政二君

青木 精一君 松山常次郎君

神崎 勳君 畔田 明君

石坂 豐一君 田崎 信藏君

一去年十七日武道普及ニ關スル建議案外一件委員小島七郎君中村貞吉君辭任ニ付其ノ補關トシテ木村三三郎君、手代木隆吉君ヲ就レモ議長ニ於テ選定セリ

一昨十八日新任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第八部選出

決算委員 齋藤太兵衛君 (佐竹庄七君補關)

一今年十九日新任委員理事補關選舉ノ結果左ノ如シ

懲罰委員 渡邊伍君 (理事吉田眞策君補關)

理事 渡邊伍君 (理事吉田眞策君補關)

一昨十八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

畜産組合法中改正法律案

委員長 松實喜代太君

理事 菅村 太事君

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案

委員長 田中 萬逸君

理事 來栖 七郎君

鐵道敷設法中改正法律案

委員長 田中 善立君

理事 中村 清造君

教育ノ機會均等ニ關スル建議案

委員長 今里準太郎君

理事 土居 通憲君

石川安次郎君 石坂 豐一君

田崎 信藏君

マシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ガナイト認メマス、仍テ許可致シマス、是ヨリ日程ニ入リマス、日程第一、海上衝突豫防法中改正法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長内野辰次郎君

野辰次郎君

第一 海上衝突豫防法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一海上衝突豫防法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十四年二月十七日

海上衝突豫防法中改正法律案委員長 内野辰次郎

衆議院議長粕谷義三殿

〔内野辰次郎君登壇〕

○内野辰次郎君 本案ノ審査ニ際シマシテハ詳細ナル質問ト、懇切ナル説明ガアリマシタガ、要スルニ改正ヲ要スル點ガ極メテ明瞭デアリ、改正スル點モ亦適切デアリマス爲ニ、特別委員會デハ全會一致デ原案ヲ可決致シマシタ、右報告ヲ致シマス

○議長(粕谷義三君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作問辨逸君 直ニ本案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレントコトヲ望ミマス

〔賛成ニ賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 作問君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

海上衝突豫防法中改正法律案

第二讀會(確定議)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定セラレマシタ、日程第二、及第三ハ同一委員ニ付託セラレ、且ツ同種ノ關聯セル議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ茲ニ日程第二、米穀法中改正法律案、日程第三、米穀需給調節特別會計法中改正法律案、右兩案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長井上敬之助君

井上敬之助君

第二 米穀法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一米穀法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十四年二月十八日

米穀法中改正法律案委員長 井上敬之助

衆議院議長粕谷義三殿

井上敬之助

第三 米穀需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一米穀需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十四年二月十八日

米穀需給調節特別會計法中改正法律案委員長 井上敬之助

衆議院議長粕谷義三殿

井上敬之助

○井上敬之助君 米穀法外一件ノ改正法律案ニ對シマスル委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、此改正案ハ極メテ簡單ナル改正デアリマスルガ、其及ビマス所ハ隨分重大デアル、而シテ御承知ノ通り國民多

數が多年希望シテ居タ所ノ問題デアリマス、尙ホ現政府ノ重要政策ノ一ツデモアリマス、殊ニ國民生活ニ重大ナル關係ヲ有スル所ノ法案デアリマスルガ故ニ、委員會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ審議ヲ致シタノデアリマス、其實問題ニ對シマスル御參考ニナルベキニ、第一ニ御紹介ヲ申上ゲヤウト思フノデス、第二ニハ現行法ニ「市價」ノ二字ヲ挿入ヲ致シマシテ、ソレガ爲ニ此運用上從來ノ方法ト、今後執ルベキ方法ト如何ニ相違ガアルノデアルカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ從來ハ量ノ調節ヲ專ラト致シタ譯デアアル、故ニ甚ダ不徹底ノ點ガ多ク、デアリマスルガ、今後ハ價格ノ調節ヲ致スト云フコトニ相成リマスナラバ、政府ノ活動ノ範圍ガ廣クナツテ、隨テ從來米價ノ暴騰暴落ト云フモノヲ防止シ、而シテ價值ヲ縮小スルコトガ出來ルガ爲ニ、其消費者ニ於キマシテモ、生産者ニ於キマシテモ、是ガ安定ヲ與ヘルコトガ出來ルノデアアル、例ヘテ申シテ見マセウナラバ、量ノ調節ダケデアリマスルト、本年ノ如キ不足ヲ生ジマス年柄ニ於キマシテハ、唯、外米ヲ輸入スルト云フ方法ヨリ他ニ執ルベキ途ハ無イデアリマス、併ナガラ是ガ價格ノ調節ヲ致スト云フコトニ相成リマスルナラバ、是ガ原因トナツテ暴騰ヲ來スト云フ場合ニハ、之ヲ調節スルト云フ利益ヲ受ル譯デアアル、故ニ頗ル從來トハ效果ヲ多ク奏スルモノデアルト云フコトノ御答デアッタノデス、然ラバ暴騰暴落ヲ防止スルト云フコトデアリマスルナラバ、其價額ヲ何レノ點ニ置クノデアアルカ、價ト云フモノ何レニ置クノデアアルカ、又ソレハ何レノ標準ニ據ルノデアアルカ、其基礎ヲ何レニ置クノデアアルカ、而シテ其價額ハ何レノ價格ヲ以テ相當ト認ムルモノデアアルカ、斯ウ云フコトノ質問デアッタノデス、之ニ對シマシテ政府ハ種々研究ヲ致シタノデアアル、生産費デアルトカ、或ハ消費者ノ生活費デアルトカ、或ハ物價指數デアルトカ、是等ノモノニ付テ調査研究ヲ遂ゲテ見タガ、是デ適當デアアル、完全デアルト認ムルモノガ

無イノデアアル、矢張已ムヲ得ナイ譯デアアルカラ、其當時ノ物價ノ狀態ト、經濟上ノ關係ト、米ノ需給關係ト云フモノヲ基ニ致シテ、サウシテ連觀ノニ之ヲ定ムルヨリ外致方ガナイ、斯ウ云フ御答デアッタデアリマス、個々生産費ヲ取調ベテ見マスト云フト、本年ノ如キ早魃ニ遭遇致シヤウナコトニナリマスルト、一石ノ米ノ價ガ三百圓モ掛テ居ルト云フ生産費ノ場所モアルノデアアル、又石五十圓ト云フ如キ價額ノモノハ全國ニザラニアルノデアアル、デアアルカラシテ之ヲ以テ正當ノ價額ナリト認ムルコトハ出來ナイ、謂ハバ之ヲ何ト言ハウカ、社會の生産費トデモ言ハウカ、若クハ限界の生産費トデモ稱スベキカ、斯様な言葉ヲ以テデモ言ハナケレバ言現ハスコトガ出來ナイガ、要スルニ結局是モ遠觀のニ見ルト云フコトニ判斷スルノ外ハナイノデアアル、而シテ其價額ハ本年ノ如キ、今日デハ幾ラノモノデアラウカト云ヘバ、大抵政府ノ見ル所ニ依レバ三十七、八圓ヲ以テ相當ナリト認メルノデアアル、斯ウ云フ答デアッタノデアアル、ソレカラ政府ハ今後此法律ヲ運用スル上ニ於テ、生産者ヲ保護スルノデアアルカ、又消費者ヲ保護スル方針デ運用スルノデアアルカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ生産者ヲ特ニ保護スルト云フ譯デモナイ、又消費者ヲ保護スルト云フ譯デモナイノデアアル、要ハ即チ兩者共ニ一年ヲ通ジテ不平不滿ナカラシムルト云フ方法ヲ執ルノダト云フ御答デアッタノデス、次ハ米穀委員會ノ事ニ付キマシテ質問應答ガアッタノデス、米穀法ニ於ケル所ノ米穀委員會ト云フモノガ組織サレテ居リマスルガ、從來餘リ開會サレタコトヲ認メテ居ラヌ、而シテ其委員ニナツテ居ラル、人々ガ多クハ官吏、若クハ消費者ト認ムル所ノ人ノミデアアル、故ニ政府ハ今後此米穀委員會ナルモノヲモトメテ活用セシムルノ方法ヲ執ラナイカ、尙又其委員ニ生産者ヲ少クモ半數位入ル、ト云フ考ハナイカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ今日マデ委員會ヲ開會シナカタト云フコトハ、成程

其通りデアリマスルケレドモ、ソレハ量ノ調節ガ専ラデアリマシタガ爲ニ、委員會ヲ開會スルノ必要ハ認メナカタノデアアル、併ナガラ今後價額ヲ調節ヲ致スト云フコトニ相成リマスナラバ、此委員會ノ必要ガ益多クナツテ參ラウト思ヒマスルカラ、大ニ今後ハ此委員會ニ俟ツ所ガ多イト考ヘル、而シテ其委員ハ御説ノ通り官吏ガ全ク多過ぎルヤウナ感ジヲ持ツテ居ル、又只今御希望ノ如ク生産者ノ中ヲ少クトモ半數之ニ入レルヤウナコトニ致スコトニナリマスルト、又消費者ノ方カラモ半數入レナケレバナラナイト云フコトニナツテ、結局消費者ト生産者トガ利害相異ルガ爲ニ相爭フト云フコトデ、滑カニ此委員會デ決メタ米ヲ納メルト云フコトガ無クナル、故ニ此生産者若クハ消費者ト云フヤウナ言葉ハ拔キニシテ、最も適當ト認ムル人々ヲ今後増加ヲ致シテ、サウシテ此委員會ノ全キ效用アラシムル考デアアル、斯ウ云フ答デアッタ、此外ニ關稅ノ問題デアルトカ、或ハ米——外米ノ管理、又ハ特許制度ノ問題デアルトカ、或ハ米穀法ノ第三條ノ買入價格ノ告示ノ問題デアルトカ、或ハ本法運用ノ問題等ニ付キマシテ、詳細ナル質疑應答ガアリマシタ譯デアリマスルケレドモ、是等ノコトハ餘リ長クナリマスカラ簡略ヲ致シマシテ、此委員會ノ速記ヲ御覽下サルコトニ願ヒタイト思フノデアアル、ソレカラ討論ニ入りマシテ、各派カラ色々ノ御議論ガアリマシタガ、要スルニ此問題ハ國民多數ガ希望致シテ居タ問題デアアル政府ハ此民意ヲ容レテ、サウシテ此改正案ヲ出シタト云フコトハ最も多トスル所デアアル、サリナガラ要ハ即チ本法運用如何ニ依テ、此效果ヲ收ムルカ收メナイカニ在ルノデアアル、政府ハ此「市價」ト云フ二字ヲ入レルト云フ精神ニ基イテ此目的ノ貫徹ニ努メルコトニシヤウ、此意味ニ於テ賛成スルト云フコトデアリマシテ、結局全會一致ヲ以テ本案ハ可決ヲ致シタ譯デアリマス、但シ政友本黨ノ原田君ヨリ、本案ノ改正ニハ賛成デアアルカ、之ニハ希望決議ヲ致シタイト云フコトデアリマシタ

ガ、ソレハ本會ニ於テ其希望決議ノ案並ニ其理由ハ説明スルト、斯ウ保留サレテ居ル譯デアリマス、以上ハ即チ委員會ノ概要ヲ御報告申上ゲタ次第デアリマス（拍手）
○議長（粕谷義三君）是ヨリ討論ニ入りマス、通告順ニ依テ其發言ヲ許シマス、——
高田松平君
〔高田松平君登壇〕
○高田松平君 本改正案ハ只今委員長ヨリ御報告ノ通り、極メテ簡單ナル改正デアアルケレドモ、其影響スル所ハ非常ニ重大ナル關係ガアリマス、故ニ私ハ此米穀法及米穀需給調節特別會計法ノ二案ニ付キマシテ、委員長報告ニ賛成シ、極メテ簡單ニ其理由ヲ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、其理由ハ大正十年第四十四議會ニ於キマシテ、政府ヨリ提案サレタ案デアリマス、其當時政府ノ提案ハ現行法ノ通り、即チ數量ヲ調節スルト云フ法律デアッタノデアリマス、吾々憲政會同志ハ數量調節ノミデハ到底完全ニ生産者並ニ消費者ノ安定ヲ得ルコトガ出來ナイカラ、需給ノ調節ト同時ニ價格ノ調節ヲ爲サナケレバナラヌト云フ理由ヲ以テ、其當時修正意見ヲ提出シタノデアリマス、遺憾ナガラ吾々ノ數量價格兩本位ノ主義ハ、少數ヲ以テ否決サレタノデゴザイマス、但シ其當時ノ速記録ニ依ルト云フト、吾々ノ修正意見ニ反對シタ人々モ、決シテ價格ノ調節ヲ爲スノガ惡イト云フノデハ無カタノデアリマス、數量ノ調節ト云フコトニ依テ價格ノ調節ガ出來ルノデアアルカラ、殊更ニ價格ノ文字ヲ加フルノ必要ナシトノ理由ヲ以テ、價格ノ二字ヲ加ヘルト云フ吾々ノ修正意見ヲ否決サレタノデアリマス、爾來現行法實施ノ成績ヲ見マスルト云フト、其施行ノ成績ガ數量ノ調節ニノミ重キヲ置クノ結果、消費者ノ利益ヲ圖ルニ急ニシテ、生産者ノ利益ハ本法ノ運用ニ依テ、寧ロ阻害サレタ傾ガアルノデアリマス、例ヘバ第二條ノ適用ニ付キマシテモ、關稅ヲ撤廢シタコトハ度々アルノデアリマス、併ナガラ加州米ノ如キ溫帶米、日本ノ米ト同質ナル米ガ大正十一年ニハ五、六十万石

輸入サレタノデアリマスケレドモ、其當時第二條ニ依テ關稅ヲ増加スベキガ當然デアリノニ、更ニ増加サレナカッタノデアリマス、又政府ガ第二條ニ依テ種々ノ方法ヲ以テ輸入ノ獎勵ヲ爲シタコトハアリマスケレドモ、併ナガラ輸入ノ制限ヲ爲シタコトハ無イノデアリマス、又餘剩米ヲ買入レントスル場合ニ於キマシテ、其豫期ノ數量ヲ買入レラレタコトハ無イノデアリマス、要スルニ今日マデノ運用ノ實績ニ見マスレバ、數量ヲ増スト云フコトニ付テ極端ナル努力ヲ拂ハレマシタケレドモ、餘剩米ノ出來タ場合ニ於テ此數量ヲ少クスト云フコトニ付キマシテハ、努力ガ足ラナカッタ虞ガアルノデアリマス、其結果ト致シマシテ、米穀法實施後端境期ニ於ケル米ノ殘在高ハ、米穀法實施前ノ三年間、即チ大正七年、八年、九年ノ端境期ニ於ケル殘存米ハ平均四百萬石デアリシモノガ、米穀法實施後ノ大正十年、十一年、十二年ノ端境期ニ於ケル所ノ殘存米ノ平均ハ七百四十萬石ニ達シタノデゴザイマス、是等ノ爲ニ米穀市場ハ此殘存米ノ爲ニ價格ノ壓迫ヲ被リマシテ、大正十年、十一年、十二年ノ平均ノ東京深川市場ニ於ケル中米ノ平均價格ハ三十二圓八十五錢デアリマス、而シテ生産費ハ如何デアアルカト云フテ之ヲ能ク調ベテ見ルト、帝國農會ガ全國ノ二十府縣ニ付テ調査シタル結果ニ依レバ、三十八圓二十六錢ニナッタノデゴザイマス、即チ此三箇年間ノ平均ニ於キマシテ、約一石ニ付テ五圓四十一錢ト云フモノガ生産額ヨリモ安イト云フ結果ヲ見タノデゴザイマス、斯様ナル結果ヲ見タコトハ、吾々ハ單ニ米穀法ノ運用ガ其宜シキヲ得ナカッタノミ、ノ結果トハ申シマセヌ、他ニモ理由ガゴザイマセウケレドモ、兎ニ角大正七年、八年、九年ノ端境期ニ於ケル米ノ現存高ハ四百萬石デアリシモノガ、米穀法施行後ノ三年間ノ米ノ殘存高ト云フモノハ七百四十萬ノ多キニ達シタ、此統計ヲ見マスレバ、明ニ米穀法ノ運用ガ數量ヲ増加スト云フコトニ傾イタト云フコトヲ私ハ立證シ得ルモノト思フノデアリマス、

此結果ハ米一石ニ付テ五圓四十一錢ダケ生産費ニ對シテ不足ヲ來シタノデゴザイマスカラシテ、假ニ全國ノ移動米ト申シマスガ、商品ト申シマセウカ、兎ニ角商品トシテ市場ニ現レル米ノ數量ヲ約二千四百萬ト致シマスレバ、略、其邊ト思ヒマス、先以テ大正十年、十一年、十二年ヲ通ジテ、此間ニ於テ生産者ハ利息其他ヲ計上セズシテ、三億七千六百萬圓ノ損失ヲ爲シタト云フ結論ヲ大體ニ於テ得ルノデアリマス、即チ農村ハ他ノ物價ノ騰貴シテ居ル割合ニ米ノ價格ハ下落シテ、農村ノ疲弊、困窮ノ狀況ガ今日ニ至リタト云フコトハ、他ニ種々ノ理由ガゴザイマセウケレドモ、此米ノ價格ガ生産費ヲ償フコトガ出來ナカッタト云フコトガ、一大理由デアアルト吾々ハ見ルノデアリマス、ソコデ此大正十年ニ本法ノ制定サレタ場合ニ於テハ、生産者ノ側ハ非常ニ米穀法ニ多大ノ期待ヲ持チマシテ、米穀法ニ依テ少クトモ米ノ生産費ダケハ得ルコトガ出來ルト思フ時期ガ裏切ラレタニ依テ、ソコデ全國ノ農會及農政關係者ハ此法律ヲ改正シテ、少クトモ、數量價格併用主義ニ依テ是ガ調節ヲ圖ラナケレバナラヌト云フコトニ、大正十一年ヨリ其議ガ決マツタノデアリマス、今回此改正法律案ニ依リマシテ、大正十年以來其運用宜シキヲ得ザリシ爲ニ、農民ニ多大ノ損害ヲ掛ケタ米穀法ハ改正セラレマシテ、四年前ニ吾々ガ主張シタル通り、數量ノ調節ト同時ニ價格ノ調節ガ出來得ルコトニ相成リシコトハ、寔ニ吾々ノ喜ビニ堪ヘナイ次第デゴザイマス(拍手)吾々ハ當局者ヲ信ジ、此法律ノ運用ニ依リマシテ生産者モ良カレ、消費者モ良カレ、即チ少クトモ、米ノ生産費ヲ償フニ足ルダケノ價格ヲ基礎トシテ、此法律ノ運用ニ深甚ノ注意ヲ拂フテ、現在ノ農村ノ疲弊困窮ヲ救済スルノ途ヲ講ゼラレンコトヲ切望スル次第デゴザイマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 東郷實君

(東郷實君登壇)

○東郷實君 私ハ只今議題ニナツテ居リマスル米穀法中改正法律案外一件、此兩法律

案ニ對シマシテハ、委員長ノ御報告ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマスルガ、同時ニ附帶決議ヲ提案致シマシテ、諸君ノ御賛成ヲ得タイト思フノデアリマス、本法律案ノ提出ノ理由書ニハ、國民生活ノ安定ヲ圖ル施設トシテ、米穀ノ數量調節ノ外其市價ヲモ調節スルノ途ヲ開カンガ爲ニ、米穀法中改正ノ必要ガアルト書イテアルノデアリマス、而シテ此改正案ノ實際ヲ點檢致シテ見マスルノニ、唯、其條文中「需給」ノ二字ヲ「數量又ハ市價」ノ六字ニ改メタ以外ニ於テ、何等ノ改正ガ無イノデアリマス、若シ政府ガ米ノ價格ヲ積極的ニ、徹底的ニ、調節スルノ御意思ガアルノデアッタラバ、此法律ノ各條文ニ對シ、適當ナル改廢ガ行ハルベキモノデアアルト信ズルノデアリマス、所謂第二條ニ於ケル關稅ニ關スル規定ノ如キ、或ハ第三條ニ於ケル米ノ買入、賣出ニ關スル規定ノ如キ、少クトモ適當ナル改廢ヲ加ヘ、更ニ必要ナル條項ガ添加サルベキモノデアアルト思フノデアリマスルガ、斯ノ如キ改正ハ何等デアリマセヌ、又本案ガ上程サレタル本會議ニ於キマシテ、或ハ豫算委員會ニ於テ、或ハ本案ノ特別委員會ニ於キマシテ、高橋農商務大臣、其他政府當局ノ御説明ニ依リマシテモ、此法案ニ依リマシテ、從來數量ノ調節ト共ニ價格ノ調節モシテ居ッタノデアアルガ、法文ニ何等明ニ示シテナイ爲ニ、世人ノ誤解ガアル、故ニ此誤解ヲ解センガ爲ニ、明ニ市價ノ二字ヲ加ヘタニ過ギナイノデアアルト云フ御説明デアリマス、此御説明ニ依テ考ヘテ見マシテモ、政府ノ爲サントスル所ノ市價ノ調節ハ從來ト何等異ル所ガナク、消極微溫的ナ調節ヲ以テ御満足ニナルモノデアアルト私ハ判斷セザルヲ得ナイノデアリマス、吾々國民ノ政府ニ要望スル所ノ問題ハ、斯ノ如キ消極微溫的ノ市價ノ調節ニアラズシテ、積極微溫的ノ調節ニアラルノデアリマス、併ナガラ是等ノ問題ニ付キマシテハ、有エル機會ニ於ケル質問應答ニ依リマシテ、現政府ニ於テ斯ノ如ク積極的ナ調節ヲヤラレル御意思ノ無イト云フコトガ明ニナタノデ

アリマス、吾々ハ斯ノ如キ程度ニ於テ満足スル者デハナイノデアリマスケレドモ、政府ニ於テ是レ以上、此場合、積極的ナ調節ヲヤラレル意思ガ無イト致シマスレバ、已ムヲ得マセヌカラ、此改正案ノ程度ニ於テ、此機會ニ於テ賛成ノ意ヲ表シ、而シテ政府ガ法ノ運用上ニ於ケル實際ノ成績ヲ徐ロニ監視致シマシテ、其結果如何ニ依テ他日改メテ適當ナ方法ヲ講ズルコトニ致シタイト思ヒマス、此意味ニ於キマシテ私ハ本案ニハ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、併ナガラ私ハ本案ニ賛成ノ意ヲ表スルノ共ニ、茲ニ一個ノ附帶決議ヲ提案致シマス「米穀法中改正法律案ニ關スル附帶決議、米穀法ハ當面ノ急ニ應ジテ聊カ暴騰暴落ヲ牽制スルノ效ナシトセサルモ、微溫不徹底ニシテ到底米價調節ノ目的ヲ達スル能ハサルヤ既往ニ徴シテ明ナリ、隨テ是カ根本對策ノ樹立ハ極メテ喫緊事ニ屬ス、政府ハ米價安定ノ國民生活及農村振興ニ至大ノ關係アルニ鑑ミ、米穀專賣其他ノ政策ニ付キ利害得失ヲ審究シ、速ニ米價安定ノ根本政策ヲ定ムヘシ」、諸君米穀ノ數量並ニ市價ノ調節ハ國民一般ノ生活ニ多大ナル關係ヲ有スルコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、隨テ此重大ナル米穀ノ數量並ニ市價ノ調節ヲ徹底的ニ爲サントスルニハ、斯ノ如キ微溫的ノ改正ニ於テハ私ハ目的ヲ達シ得ナイト思フノデアリマス、(拍手)故ニ私ハ茲ニ賛成ヲスルト共ニ、將來ニ向ッテ吾々ノ希望ヲ申述ベルノデアリマス、現内閣ノ爲スル所ノ政策ハ往々ニシテ甚ダ不徹底デアリマス、例ヘバ農村振興ニ關スル計畫ニ致シマシテモ、二百五十萬圓ヲ投ジテ計畫シタリト稱セラレマスルケレドモ、其實際ヲ詳ニ點檢シテ見マスレバ、恰モ古イ建物ノ汚レタル壁ヲ白「ペンキ」デ塗テ、少シ許リノ裝飾ヲ施シ、且ツ僅ナ建増ヲシテ間數ヲ殖シ、而シテ其方關先ニハ農村振興館ト云フ新シキ大キナ看板ヲ掛ケテ、恰モ此建物ガ新シク建テラレタガ如キ態ヲ裝ウテ、國民ヲ瞞著スルト云フヤウナ遣方デアリマス(拍手)

此米穀法ノ改正ニ致シマシテモ、正門ノ上ニ米穀需給調節所ト云フ横額ノ看板ガアツタノヲ引卸シテ、之ヲ二ツノ立看板ニ書直シタト云フガ如キモノデアリマス、即チ右ニハ米穀數量調節所、左ノ門柱ニハ米穀市價調節所、斯ノ如ク看板ヲ書換ヘタ、併ナガラ門ヲ這入テ事務所ニ這入テ見レバ、此仕事ニ從事スル所ノ事務員ニハ何等ノ増加モナク、其經費ニハ何等ノ増加ハナク、又此調節所ノ法律ニ於テハ實質ニ於テ何等ノ變化ガ無イデアリマス、所謂此法律案モ唯、看板ヲ掛換ヘタニ過ギナイト云フコトハ、寔ニ私ハ遺憾ニ存ズル次第デアリマス、吾々ハ此重大ナル問題ヲ眞面目ニ實行セントスルニ於キマシテハ、モットモット根本ノ政策ニ現内閣ガ邁テ御考究アラシコトヲ希望スルノデアリマス、(拍手)申上タルマデモナク米穀調節ニ付キマシテ、内國ノ產米ニ付テ最善ノ努力ヲ致スコトハ勿論デアリマス、併ナガラ之ヲ世界ノ實際カラ觀察シテ見マスレバ、文明國ニ於テ其國民ノ消費スル所ノ食糧ノ全部ヲ内國ニ於テ生産スルト云フ國ハ殆ド無イ、國民生活ニ必要ナル食糧ノ一部分ト云フモノハ、常ニ外國若クハ植民地ヨリ之ヲ輸入シテ居ルノデアリマス、我が日本ノ現在ニ於キマシテモ同ジク植民地、並ニ海外ヨリ足ラナイ所ノ米穀ヲ輸入シテ居ルコトハ申上タルマデモアリマセヌ、然ルニ我國ノ植民地ノ產米政策ニ對スル過去ニ於ケル植設ハ、寔ニ微温的ナモノデアリマス、私ノ知テ居リマスル範圍ニ於キマシテハ、農商務省ガ臺灣總督府若クハ朝鮮總督府ニ對シマシテ、將來三十年後ニ於ケル米ノ生産力、並ニ移出力ノ調査ヲ命ジテ居ル、而シテ總督府ハ之ニ對シテ回答ヲ與ヘ、是等ノ材料ニ依テ農商務省ハ將來三十年後ニ於ケル我國ノ米穀ノ生産、並ニ消費ノ狀態ヲ統計ニ示シテ居ルノデアリマス、此統計ハ單ニ三十年後ニ於テ我國ハ内國並ニ植民地ヲ通ジテ幾何ノ米ヲ生産シ、幾ラノ不足ガアルカト云フコトヲ示シテ居ル次第デアッテ、而シテ此重大ナル植民地ノ產米政策ニ

付テハ、何等統一サレタル徹底的ノ政策ガ立テラレテナイノデアリマス、斯ノ如キ數字ヲ徒ニ列ベテ、而シテ自ラ慰メテ居ルヤウナ狀態デ、此重大ナル食糧政策ガ解決サレル筈ハナイト、私ハ信ジマス、ソコデ私ハ先ヅ第一ニ植民地ニ於ケル產米政策ニ對シ、政府當局ハ速ニ母國植民地ヲ打ッテ一丸トシタル所ノ根本政策ヲ御研究ナリ、而シテ是ガ實現ニ努メラレンコトヲ希望スル者デアリマス、第二ハ外米ニ對スル政策デアリマス、過去ニ於テ吾々ノ豫期シナカッタ所ノ加州米ガ輸入スルコトニナッテ、是等ニ對シマシテハ關稅其他ノ政策ニ於テ、適當ナ考慮ヲ致スト云フコトガ必要デアリマセウ、又現ニ主トシテ我國ニ輸入サレテ居ル所ノ外米ノ生産地タル、佛領印度、緬甸並ニ暹羅、是等ニ於ケル產米ニ對シテハ、モット進シテ適當ナル方策ヲ執ル必要ガアルト、私ハ信ズルノデアリマス、現在西貢ニ於テ、或ハ盤谷ニ於テ、或ハ蘭貢ニ於テ、是等ノ產米ハ主トシテ支那人ノ手ニ依テ左右サレテ居ルノデアリマス、我ガ政府ハ是等ノ生産地ニ於テ——原產地ニ於テ產米ヲ自ラ我が日本人ノ手ニ於テ「コントロール」スル御計畫ニ向ッテ、過去ニ於テ何等ノ御計畫ガ無イヤウニ思ッテ居リマスガ、是等ハ今日ニ於テ政府ニ於テハ相當ノ御考慮、御研究ニナッテ、而シテ適當ナル方策ヲ講ゼラレルト云フコトガ、最も米ノ調節ノ上ニ於テ必要ナル問題ナリト信ズルノデアリマス、更ニ内ニ返ッテ米價ノ調節其モノニ付テ考ヘテ見マシテモ、吾々ハモット徹底シタル所ノ方策ヲ案出シ、サウシテ是ガ實行ニ努メナケレバナラヌト思フノデアリマス、或ハ米價ノ公定ノ如キ、或ハ進デ米ノ專賣ヲ實行スルガ如キ、其一例デアリマス、米ノ專賣ガ米價調節ノ最後ノ手段デアルト云フコトハ、學理上ニ於キマシテ何人モ異論ノ無イ點デアリマス、而シテ問題ハ之ヲ如何ニシテ實行スルカ、其實行ノ方法如何ト云フモノガ殘サレタ問題デアルト私ハ信ジマス、此點ハ現内閣ニ於テモ明ニ御承認ニナッテ居リマス、ソレハ

去ル七日本案ガ此議場ニ提出サレタ場合ニ於テ、吉植君ノ質問ニ對シテ高橋農商務大臣ハ答ヘテ居リマス、之ヲ根本的ニヤラウト云フニハ結局米ノ專賣ヲヤルヨリ外ニ仕方ガナイノデアアル、併ナガラ是ハ最後ノ問題デアアル、最も嫌フベキ政策デアアル、併ナガラ國民ガ此專賣ヲ實行スルコトヲ要求スルト云フヤウナ實情ニ達シタ場合ニ於テハ、政府ハ自ラ進シデ之ヲヤラナケレバナラヌト思フ、但シ現在ニ於テハ斯ノ如キ事情ニ切迫シテ居ルノデハナイト云フ意味ノ御話デアリマシタ、故ニ現内閣ハ我國ニ於ケル米價調節——米穀調節ノ最後ノ手段ハ米ノ專賣ニ在リト云フコトヲ御承認ニナッテ居ルノハ明デアリマス、而シテ唯、今日ハ未ダ其時機ニ達シテ居ラナイト云フ點ニ於テ、農商務大臣ハ實行サレナイノデアアルト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ今日ニ於キマシテ、吾々ハ此米穀ノ專賣制度ニ付テ、果シテ我國ニ之ヲ實行シテ適當デアルヤ否ヤ、ソレ等ノ方法ヲ速ニ政府ニ於テハ研究シ、而シテ適當デアラナラバ、之ヲ實行スルベキ最善ノ努力ヲシテ貰ヒタイノデアリマス、又此專賣ト云フモノガ我國ニ於テ實行ガ出來ナイト致シマシタナラバ、之ニ代ルベキ適當ナル根本政策ヲ研究シ、之ヲ政策ノ實際ニ現ハシテ、而シテ一面ニ於テハ米ノ生産者ニ取リ、一面ニ於テハ一般消費者タル國民ニ取ッテ重大ノ關係ヲ有スル所ノ此重大問題ヲ解決シ、而シテ米穀安定ノ根本策ヲ確立シ、國民生活ノ安定ニ資スルト云フコトハ、今日政府ガ速ニ實行シナケレバナラヌ所ノ重大問題ナリト信ズルノデアリマス、此意味ニ於キマシテ私ハ此附帶決議ヲ提出シタノデアリマス、諸君御賛成アラント希望致シマス、(拍手)

ガアリ、又只今東郷君ヨリ種々御演說ガアリマシタガ、根本ノ此提案ニ對スル趣意ニ付テハ賛意ヲ表シ、唯、茲ニ附帶決議ノモツト此運用上ニ於テ厚キ同情ヲ持ッテ、此生産者側ニ利益アル運用ヲ執ッテ貰ヒタイト云フ、希望ノ意ヲ陳述セラレタヤウデアリマスガ、要スルニ歸スル所意見ヲ同ジウスルモノデアッテ、唯、微温的デアアル、之ヲモウ少シ同情アル運用ヲ執ッテ貰ヒタイト云フ希望ニ過ギナイノデアリマスカラ、殆ド本案ハ政府ノ提案ニ對シテ滿場一致賛成カノ如ク吾々ハ認メルノデアリマスカラ、本黨諸君ニ於ケレマシテモ、些細ノ事ニ拘泥爲サレズシテ、今日ノ農民界ニ横ッテ居ル此多年ノ希望ヲ達成セシムベキ所ノ此價格——ノ二文字ヲハレ得ルヤウナ此提案ト云フモノハ、容易ナラザル政府ノ努力デアルト云フコトヲ認メマシテ、御賛成アラシコトヲ希望スル者デアリマス、屑ク斯様ナル希望條件ヲ附サズシテ、眞實ノ熱情ヲ持ッテ政府ノ政策ニ考ヘテ、サウシテ賛成アラシコトヲ切望致シマス、私ハ茲ニ本案ニ對シマシテ詳シク述ベル必要ハ無イノデアリマステレドモ、米穀法ノ實施當時ノ事ヲ考ヘテ見マスト、吾々ガ此米穀法案ノ發布ニナタルマデノ間ニ、吾々ガ此米穀法案ノ此事ニ對スル努力ハ容易ナラザルモノデアッテ、遂ニ政府ガ之ヲ認メテ、原内閣ガ之ヲ提案シマシタルコトハ、當時ノ狀況中ニ勇斷果決、之ニ對シテ原内閣ガ餘程力ヲ致シタルコトヲ吾々ハ回顧致シマシテ、感謝ニ堪ヘザル者デアリマス、當時御承知ノ通り寺内閣ガ米騒動ノ爲ニ倒レ、其後善クセンガ爲ニ原内閣ガ出來テ、サウシテドウウナ状態ヲ現出シタカト云フト、益々米騰貴致シテ居ル、サウシテ何等社會ノ狀況ニ於テ變ルコトガ無キ現象ハ、原内閣ガ價ガ高イノデヤナイ——米ハ決シテ價ガ高イノデヤナイ、量ノ問題デアアル、量ノ調節サヘスレバ茲ニ消費著ト雖モ何等不平ガ無イデナイカト云フ聲明ヲ致シマシテ以來、茲ニ消費者モ生産者モ安定致シマシテ、爾來米ハ益々騰貴致シマシタケレドモ、少シモ世ノ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 八田宗吉君

○議長(粕谷義三君) 八田宗吉君

○八田宗吉君 本案ニ對シマシテ賛成ノ意見ヲ申述ベマス、既ニ本案ニ對シマシテハ、同僚高田平君ヨリ詳細ナル賛成意見ヲ陳述

中ハ騒ガナクツノデアリマス、然ルニ爾來豐作ガ續イタル結果、遂ニ茲ニ米ノ暴落トナリ、農民間ノ大運動トナツテ、遂ニ三十五圓ナラデハ賣ラナイト云フ非賣同盟トカ、大舉シテ帝都ニ襲來ヲスルト云フヤウナ農民間ノ一大運動ガ起リマシテ、遂ニ政府モ大ニ此社會ノ狀況ニ鑑ミル所アツテ、之ヲ提案致シマシタノデアリマスガ、當時固ヨリ價格ノ調節ト云フコトヲ入レント欲スル政府ノ誠意ハアリマシタケレドモ、社會ノ狀況中ニ之ヲ一面ニ於テ許サナイ、政治ハ實際デアアル、理想デハナイ、先以テ漸次此理想ニ近ヅカントスルニハ、一歩々々進ムヨリ外ナイノデアリマス、此量ノ調節ト云フコトヲ以テ進シテ、サウシテ價ノ方面マデモ調節セントシテ政府ハ臨シタノデアリマス、然ルニ此政府ノ提案ニ對シマシテ、貴族院ニ於テハ修正ヲ受ケタノデアリマス、當時ノ歴史ハ能ク御承知ニナツテ居ルト信ジマス、即チ貴族院ハ第三條ノ末項ニ於テ「前條ノ價格ハ時價ニ準據スヘシ」時ノ價ニ準據スベシト云フ文字ヲ入レタノデアリマス、賣買ヲスル、賣拂ヲスルト云フ告市ハ即チ時價ニ準據ヲシナケレバナラヌト云フ文字ヲ入レタガ爲ニ、茲ニ徹底的ニ量ノ調節ヲモ爲シ能ハザル所ノ法案ガ甚ダ偏傾ノモノニナツテ參事ノデアリマス、故ニ此米穀法ヲ實行致シマシテ、即チ大正十年五月、大正十二年二月、此二回ダケ實行致シタノデアリマス、前回ハ即チ百万石賞上ダルト云フ告市ヲ爲シ、第二回モ矢張、百万石賞上ダルト云フ告市ヲ爲シ、サウシテ政府ハ如何ナル賞上ヲ爲シタカト申シマス、第一回ハ三十五萬八千石、第二回ハ僅ニ二十二萬一千石シカ賞上ニナラナク、百万石賞上トシテ其三分ノ一ヲモ賞上ニナラナイノデアリマスカラシテ、量ノ調節ノ趣意デモナイノデアリマス、遂ニ價ガ相當ニ高マツテ來マスと云フトソレヲ停止スル、量ヲ徹底的ニヤルト云フトコトモ致シ兼ル狀態ニナツテ居ル、サウシテ此生産者ノ利益ヲ擁護スルニ當テハ、勿論米價ヲ相當ニ維持シナケレバナラヌノデ

アリマス、サウシナケレバ效果ガ無イ、然ルニ政府ノ本來ノ目的ガ量ノ調節デゴザイマスカラシテ、價格低落ノ場合ニ當テ、如何トモ此賞上ヲ實行スルコトガ出來ナイノデアリマス、即チ大正十一年ノ如キハ大豐作デアッタ、米ハ暴落ヲ告ゲ、生産過剰ノ結果、量ガ澤山アツタサウシテ價ハ益々低落スル、斯様ナ時ニ當テ價ハ低落スルケレドモ量ハ一定ノ量ガ具、テ居リマスカラ、ソレヲ政府デ賞上ダルト云フコトモ爲シ得ナク、悲慘ナ狀況ニ在ッタノデアリマス、是レ即チ量ノ調節ト云フ政府ノ聲明サレタ結果ニ因ハレテ此ニ至ッタノデアリマス、サウシテ遂ニドウナツタコト申シマス、茲ニ量ノ調節ヲセント欲シテ爲シ能ハズ、價ノ調節ヲ爲サント欲スレバ法文ニ因ハレテ、買入ヲ爲サント欲スル時ニハドウナツテ居ルカト云フト、買入ハ二月五月實行シテ居ル、吾ニ欲スル所ハ即チ價ノ騰貴、生産者側ノ擁護ヲ爲サシムルコトガ、米穀法制定當時ノ根柢ニ在ル所ノ精神デアッタノデアリマス、併ナガラ政府ノ實收米ノ計算ノ決マルノハ二月中デアリマス、二月中ニナツテ全國ノ實收額ガ決マルノデアリマスカラ、二月以後ニアラザレバ買上ヲ爲シ得ナイ、二月後ニナツテ買上ヲ爲シ得ナイ結果ヲ生ズルカト申シマス、バドンナ結果ヲ生ズルカト申シマス、大農中農以上ノ者ハ恩典ニ浴スルカモ知レマセヌガ、大多數ノ小作人デアアル所ノ小農細民ト云フ者、此生産者側ノ斯様ナ憐ムベキ方面ニ立ッテ居ル者ハ、何等利益ヲ得ナイト云フ結果ニナツタノデアリマス、之ニ對シテ價格ト云フ二文字ヲ置キサヘスレバ、量ノ調節モ安イ時ニハ出來ルノデアリマスカラ、價格ト云フ文字ヲ入レザレバカラズトシテ法律制定當時カラ希望シテ居タノデアリマスカラ、一歩進シテ此量ノ調節ヲ以テ徹底的ニ量デ賞上ダレバ茲ニ價ノ調節ガ出來ルト信ジマシタケレドモ、政府ハ此價ト云フ文字ガ法文上ニ無イ所ニ因ハレマシタ爲ニ、買上ヲ爲ス時機ガ一般農民ノ希望セザル時機ニ買入レヲ爲スト云フコトニナツテ來マシテ、生産者側カラ申シマシテ

モ、此買入ノ時機ハ甚ダ不適當ナル時、又消費側カラ申シマシテモ何等幸福ヲ受ケナイト云フコトニナツテ來マシテ、生産者側カラモ怨マレ、消費側カラモ何等歡迎サレナイト云フヤウナ米穀法案ハ過去ノ經歷デアッタノデアリマス、故ニ帝國農會其他各農事團體ニ於テハ、是非共此米穀法ノ運用上價格ノ二文字ヲ入レベシト云フコトガ本會議ニ於テハ建議案トナリ、會テハ法律案ノ提出トナツテ、サウシテ居リマシタケレドモ、未ダ本院ヲ通過スルト云フダケニ進マズシテ、サウシテ貴族院ニ至ツテ之ヲ法律案ニセシムルニ至ラズシテ、今日マデ延期セラレテ居ルト云フノガ今日ノ實情デアッタノデアリマス、然ルニ現政府ハ斷乎トシテ一般農民ノ希望ヲ容レテ、此提案ヲセラレタノハ頗ル英斷ノ處置デ、吾等ハ衷心ヨリ政府ノ處置ニ對シテ感謝措ク能ハザルモノデアリマス（拍手）只今東郷君ハ政府ガ生産者側一般農民ニ對シテ徹底的ノ處置バカリデヤツテ、少シモ同情ガナイノガ残念デアルト云フコトヲ言ハレマシタガ、現政府ハ成立以來農民界ニ對シテ如何ニ興望ヲ容レテ實施シタカト云フ色ノ項目ヲ舉ゲマシタナラバ、吾々ハ指ヲ折ルニ違アラザル程ニ澤山アルト考ヘルノデアリマス（拍手）即チ諸君ハ高橋農商務大臣ガ職ニ就カレテ以來深ク生産者側ニ同情ヲサレ、山本内閣ガ米ノ關稅ニ對シテ九月十二日——大正十二年ノ九月十二日ニ至ッテ關稅ノ撤廢ヲ爲シ、清浦内閣ガ現レ、之ヲ大正十三年ノ三月三十一日デアッタモノヲ八月マデニ延期シマシタモノヲ、高橋農商務大臣ハ就職以來此關稅ノ撤廢、斯様ナ時ニ於テ撤廢スルコトハ生産者ヲ脅スモノデアルカラ、撤廢スベカラズトシテ八月以來之ヲ復舊シテ、ズット繼續シテ參ッテ今日ニ至ッテ居タ所デス、諸君、御承知ノ通り去ル二月中ニ於テ此關稅ガ又撤廢ニナリマシタケレドモ、是ハデス、歷代ノ内閣ヲ見マスルト、何時デモ此外米ノ關稅撤廢ナルモノハ大正七年以來十一月一日、ソレカラ翌年ノ十月三十一日マデ、

——此一箇年間ハ大正七年デアリマス、之ヲ免除シテ居ル、外米ノ輸入稅ヲ免除シテ居ル、大正八年十一月以後、大正九年十月三十一日マデ免除シテ居ル、ソレカラ大正十年ノ十一月二十二日以後大正十一年十月三十一日マデ、矢張「米穀法」ガ實行ニナツテ居ル、政府即チ農商務大臣ガ勅令ヲ以テ此外米ノ輸入關稅ヲ撤廢スルコトガ出來ル權能ヲ持ッテ居ルヤウニナツテ來マシタ結果、矢張之ヲ實行致シタノデアリマス、斯様ニシテズット先程來山本内閣、清浦内閣等ニ於ケル外米關稅ニ對スル狀況ヲ見マシタノデス、何時デモ農民ガ端境期、賣ラントスルトキ、中農小農ガ賣ラントスルトキニ當テ外米ノ輸入稅ノ撤廢ヲ爲スト云フコトノ結果ハ、秋ニナツテ非常ニ米價ガ暴落スルト云フ結果ヲ來シテ居ルノデアリマス、然ルニ此高橋農商務大臣ハ此ニ見ル所アツテ、外米ノ輸入稅ノ撤廢ヲ本年スレバドウシテモ米價ガ暴落スルト云フトキニヤラナケレバナラヌト云フコトヲ以テ、消費者側ハ頗ル盛デアッタノデアリマス、併ナガラ斯様ナトキニ撤廢スレバ小農中農ヲ救フコトガ出來ナイト考ヘマシタカラ、此外米輸入稅ノ撤廢ヲ延シタマシテ、此二月ニナツテ此外米ノ輸入稅ヲ撤廢スルト云フコトニナツタガ爲ニ、如何ニ中農小農ヲ救ハレタデアリマセウカ、昨年ノ秋アタリニナリマスルト、初メテ——一般農民ハ初メテ慈眉ヲ開クヤウナ米ノ價ニナツタコトハ、諸君、平生中農小農ニ接シテ居ラル、方々ハ既ニ御承知ニナツテ居ルコト、信ジマス、漸ク慈眉ヲ開ク價ヲ以テ此米ノ取引ヲ爲スト云フコトハ、昨年ノ秋現内閣ノ外米關稅撤廢ニ對スル處置其宜シキヲ得タ爲デアルト云フコトヲ申スト共ニ此買入、賣渡、拂渡、斯ウ云フコトニ對シテ適當ナル處置ヲ執タコトハ、中農小農ノ救済スルニ厚キコトガ此ニ至ッタモノデアルト云フコトヲ私ハ斷言スルニ憚カラザル者デアリマス（拍手）斯様ナ事ノ爲ニ如何ニ救ハレテ居ルカ知レナイ、或ハ農務省ノ獨立問題、是ハ多年ノ

問題デアル、農業社會ノ大問題デアル、併ナ
ガラ何レノ政府モ之ヲ實行スルコトヲ聲明
シナイ、然ルニ高橋總理大臣ガ去ル四十四
議會ニ於キマシテ、農會法ノ改正ノ委員會
ニ於テ、消費者側ト生産者ト一緒ニシテ
取扱フ所ノ役所ガアルノハ甚ダ宜シクナ
イ、是ハ立ロニ實行スベキモノデアルカラ、
此豫算ヲ實行シタ後、即チ來ルベキ議會ニ
於テハ之ヲ提案スルコトヲ云フコトヲ、當時ノ
高橋總理大臣、今日ノ農商務大臣ガ當時是
ハ聲明セラレタ所ノ事デアツテ、農會法委
員會ノ速記録ニ明ニ在ル事實デアリマス、
其後ニ至ッテ清浦内閣等ガ之ヲ實行セント
シテ、サウシテ實行スルコトヲ得ナカッタ
コトヲ、最初ノ聲明ノ如ク今回農務省ノ獨
立ヲ實行スベク豫算ヲ計上シテ提案サレタ
ト云フコトハ、事ハ小ナルガ如シト雖モ農
民ノ權利ヲ伸スベキ所ノ機關ヲ置タコトニ
對シテ、躊躇ナク斷行セラレタ、此一事ニ
對シマシテハ、農民タル者誰カ感謝セザル
者アランヤト私ハ申上ゲルノデアリマス
(拍手)事實ニ於テ斯様デアリマス、私ノ澤
山ノ言辭ヲ茲ニ費ス必要ハ無イト信ズル、
現政府ニ至ッテ如何ニ農村方面ニ多大ノ同
情ヲ持ッテ居ルカ、人或ハ今回ノ貨幣改鑄
益金二百五十萬圓ヲ以テ農村ノ施設ニ充テ
タル處置ハ甚ダ金額ガ小デアルト云フコト
ヲ言ヒマスルケレドモ、此財政ノ緊縮極リ
ナキ今日ニ方ッテ、斯様ナ事ヲ實行スルト
云フコトハ、如何ニ同情アル處置デアルカ
ト云フコトハ、是ハ知ル人ゾ知ル、農民間
ニ於テ如何ニ感謝スルカト云フコトハ、私
ガ茲ニ數行ヲ加ヘル必要ハ無カラウト信ズ
ル(拍手)私ハ斯様ニ意味ニ於キマシテ、單
ニ名ヲ費ランガ爲ニ徒ニ僅ナル附帶決議ナ
ドヲ提ダテ、サウシテ本案ニ對シテ如何ハ
シキ議論ヲ試ミラレト云フヤウナ事ハ、敬
愛スル政友本黨ノ爲ニ私ハ取ラザル所デア
リマス(拍手)速ニ御撤回アラントコトヲ望
ミ、私ハ原案ニ對シテ賛成ノ意ヲ表スル者
デアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 岡田溫君

〔岡田溫君登壇〕

○岡田溫君 私ハ大體ニ於テ政府提出ノ改
正案ニ賛成デアリマス、唯、併シ此法律ハ
實施日ガ淺イノデアリマスルカラ、其趣旨
ニ於キマシテモ、或ハ運用方ニ於キマシテ
モ、種々疑義ガアリマシタリ、或ハ人々見解
ヲ異ニスルヤウナコトガアリマスカラ、私
ハ此機會ニ贊成ノ理由ト共ニ少シク疑義ヲ
質シ、及少シク希望ヲ述べサシテ戴キタイ
ノデアリマス、先ヅ第一ニ米穀法ハドウ云フ
種類ノ政策ニナルカト云フコトニ疑義ガア
リマス、歴代ノ政府ハ農業政策トシテ取扱
テ居ルノデアリマス、無論サウデアリマセウ
又世間デハ多クハ之ヲ以テ農業保護政策デ
アルト見テ居ラレルヤウデアリマス、所ガ
私共ノ考ニ依リマスト、成程此法律ノ運用
ノ部分ニ於キマシテハ、大ニ農業ヲ保護ス
ル所ガアリマスルケレドモ、一面ニハ又農業
ノ利益ヲ抑ヘル所モアルノデアリマススカ
ラ、ソレ是レ差引シテ考ヘテ見マシマス
ト、農業保護政策ニ屬スルモノデハナイヤ
ウデアアル、ミナラズ何方カト云ヘバ、多少
農業者ノ利益ヲ犧牲ニ供スルヤウナ社會政
策デハナイイカト思フノデアリマス、何故カ
ト言ヒマス、現今御承知ノ通り農業ノ保
護政策ハ色々アリマス、耕地整理トカ開墾
助成法トカ、倉庫トカ、是等ハ大體ニ於キ
マシテ生産増殖ノ助長政策デ、無論大事ナ
保護政策デアリマスガ、今日一番大切ナノ
ハ價格ノ保護ニ屬スル政策ガ最も大切デア
リマス、殊ニ外國ノ安イ輸入品ニ依ッテ、内
地產ノ壓迫サレルモノニ對シテ、價格ヲ維
持スル政策ガ最も重大デアリマシテ、ソレ
ハ從來御承知ノ關稅定率法ニ依ッテ保護サレ
テ居ルノデアリマス、所ガ此米穀法ニ依リマ
シテ從來與ヘラレテ居リマシタ所ノ此保護
ノ効力ガ、餘程減殺サレルノデハナイイカト
云フ疑義ガアルノデアリマス、ソレハ米穀法
第二條ニ「政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲
メニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期
間ヲ指定シ米穀ノ輸入税ヲ増減若ハ免除シ
又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ
得」ト云フノデアリマス、是デ以テ關稅定
率法ニ與ヘラレテ居リマシタ所ノ保護ハ大

變減殺サレルコトニナル、所ガ之ニ對シテ
ハ說ガアル、サウデハナイ、是ガ無クトモ
關稅定率法ノ第六條ニ依ッテ矢張勅令ヲ以
テ輸入税ヲ減ズルコトガ出來ルノデアルカ
ラ、米穀法ニ依ッテ特ニ減殺サレルノデハナ
イト云フ議論モアリマスガ、決シテサウデハ
ナイト思ヒマス、關稅定率法ノ第六條ハ
「米及穀ノ輸入税ハ内作ノ場合ニ於テハ勅
令ヲ以テ期間ヲ指定シ每百斤四十錢ヲ限度
トシ之ヲ低減スルコトヲ得」ト云フノデア
リマスカラ、此方ニハ内作ト云フ條件ガア
リマスル上ニ、百斤一圓ノ稅率ヲ四十錢マ
デニ下ゲテ宜イト云フ限度ガアツテ、矢張
アトニ保護ノ精神ナリ形ガ殘リマスガ、米
穀法ノ第二條デハ其條件モ取去リ、ソレカ
ラ限度モ取去ラノデアリマスカラ、是ニ
於テ少クとも法律ノ形式ノ上ニ於キマシテ
ハ、關稅定率法ニ定メラレタル所ノ保護
ヲ取去ラレタノデアアル、是ガドウ云フ風ニ
働イテ居ルカト云フト實際問題ヲ説明致シ
マスルコト云フ、確ニ從來ヨリ價格ヲ抑
ヘラレテ居ル作用ハアルノデアリマスガ、
長クナリマスカラソレハ略シテ置キマス、
所ガ斯様ナ事ガ假ニアツタシマシテモ、
其法律ノ他ノ部分ニ於テ償付所ガアルナラ
バ、是亦利害平均シテ考ヘナケレバナラヌ
問題デアリマスルガ、米穀法ノ何レノ部分
ヲ吟味致シマシテモ、特ニ生産者ガ保護セ
ラレルト云フ所ハ一ツモ無イノデアリマス、
斯ウ云フヤウニ從來ノ保護ヲ取去ラレタト
云フコトハ明ニ法律ノ上ニアリマスガ、從
來ヨリ保護ヲ加ヘルト云フ所ハ何處ニモ無
イ、所ガ之ニ對シテモ矢張議論ハアリマス、
イヤサウデハナイ、下落ノ場合ニ政府ガ買
上ゲルコトニ依ッテ下落ヲ防止スルト云フ
コトハ、非常ナ保護デナイイカト云フ議論デ
アリマスガ、ソレハ非常ナ保護デアリマス
カ、吾々モ是アルガ故ニ實ハ他ノ方面ノ不
利益ハ忍ビデ、サウシテ、此下落ノ遵奉シテ
居ルノデアリマスルガ、併シ下落ノ時ニ買
上ゲルダケナラバ宜イノデアリマスガ、騰
貴ノ時ニハ今度ハ抑ヘルト云フコトガ同ジ
ヤウナ作用ニ依ッテヤルノデアリマスカラ、
利害ヲ相殺シテ考ヘマスルト、何方ガ得デ

アルカ、損デアルカト云フコトハ、ハッキ
リシナイ、是ハ理論上ニ於キマシテ私ハ不
利益ガ多クシテ、利益ガ少イノデハナイ
カト云フ疑義ヲ持ッテ居リマス、何故カト
云ヒマスルト、米價ノ下落ト云フコトハ、申
スデモナル、市場ニ浮動米ガ澤山出來ル
ノデアルカラ、ソレガ壓迫スルカラ安クナ
ル、故ニ下落ノ原因ヲ取去ルニハ、浮動米
ヲ取去ラナケレバナラヌノデアアルカラ、ソ
レヲ取去ルノデアリマスガ、政府ガ買上ゲ
タマケデハ取去ルコトガ出來ナイ、買上ゲ
テ海外ニ出シテ、始め其浮動米ト云フモ
ノハ壓迫ヲ取去ルコトガ出來ルノデアリマ
スガ、ソレハハシナイノデアリマスカラ、内
地ノ何處カニ貯ヘテアル、今日ノ米價ノ神
經ハ非常ニ過敏、銳敏デアリマスカラ、政
府ガ持ッテ居ラウト、地主ガ持ッテ居ラウト、
農家ガ持ッテ居ラウト、内地ニ食糧ニ供シ
得ベキ米ガアル以上ハ、實ニ計算サレマ
スルカラ、始終ソレガ壓迫ヲシテ居ル、デア
リマスカラ假ニ此米穀法ノ作用ガ何ニモ之
ガ無イ場合ニ葉テ、指イタナラバ、三十圓ニ
下ル場合ハ此調節ニ依ッテ三十二圓ニ喰止
メルコトガ出來マス、サウスルト、二圓方
ハソコニ保護サレタト云フテ、ソレハ大ナ
利益デアリマスガ、全儲ニハナラナラ、
今度市場ノ調節ガ多少出來マシテ、三十四
圓位ニ回復ヲシナケレバナラヌ事情ガ出來
テ來マシテモ、政府ノ持米ト云フモノガ實
米トナツテ壓迫シテ居リマスカラ、矢張三十
二圓、三圓ノ所ヲ往來シテ居ッテ、三十四
圓ノ所ニ來ナイ、サウデアリマスカラ、前
ニ儲ケタ所ヲ後失フト云フコトニナツテ、
賣ツテ個々ノ農家ヲ調ベタナラバ、保護サ
レタ者モアリマセウガ、農業者全體ヲ平均
シテ見マスルト云フト、サウ利益ニナルベキ
性質ノモノデナイヤウニナルノデアリマス、
尤モ斯ウ云フコトハハッキリ數字のニ言ヘ
マセウガ、米界ノ事情ハサウ云フモノデア
ラウト思ヒマス、又サウナンデアル、所ガ
騰貴ノ時ニドウナルカト云フト、上ツテ行
ク時ヲ抑制スルノハ、騰貴ノ原因タル量ガ
不足シヤウカト云フ所ノ、ソレニ對シマシ
テ政府ハ輸入税ノ撤廢其他ノ方法ニ依ッテ
十分ニ米ヲ安定テ、而モ米穀法實施以來、
政府ノ食糧安定ヲ保障スル責任ガ出來タヤ
ウナ形ニナツテ居リマスカラ、十分ニ萬一
ニモ不足ヲシナイヤウニ用意スルノデアリ
マス、サウデアリマスカラ、ズット騰貴ス

ベキ原因が完全ニ取去ラレテシマフノデア
リマスカラ、皆サンモ御承知ノ通り米穀法
實施以來ハ一之ガ無カッタ從來デアッタ
ラ、五十圓五十五圓ト云フ價が一寸出ナケ
レバナラヌ事情ノ下ニ出テ來テモ、サウ云
フ値段ハ少シモ出來マセズ、非常ナ高價ナ
ト云フ相場ハ出テ來ナイ、之ニ反シテ米穀
法實施以來安クナル方ハ矢張安クナッテ居
ル、二十七圓、六圓ト云フ相場が大正十一
年カラ十二年ニ大分出タノデアリマス、是
等ノ上リ下リノ模様ヲ見、即チ米穀法ノ運用
作用ニ依テ、上タリ下タリスル所ヲ公
平ニ見マスルト云フ、利益ノ方ガ多イカ
不利益ノ方ガ多イカハ、ソレハ見ル人ニ依
テ多少違フデアリマセウガ、私共ノ可ナ
リ精細ナル調査ニ依テ見マスルト、何ダ
カ不利益ノ方ガ多イノデハナイカト云フヤ
ウニ考ヘテ居ル、デ是ガ元々農業保護政策
ト云フノデアルカ、社會政策デアアルカト云
フ所ノソコガ疑義ノ岐レル所デアリマス、
私ハドウラガ宜イト云フ意味デハナイ、法
律ノ性質ヲ糺シテ見タイト云フデハナイ、コ
トアル、ケレドモガ一面ニ我國ノ食糧ト云
フモノハ、世界中デ最モ不安定ナ狀態ニ在
ルデアリマスカラ、何トカシテ國策トシ
テ食糧ノ安定ヲ圖ルト云フコトハ最モ必要
デアリマセウ、故ニ左様ナル大ナル必要ノ
下ニハ、縱シ私共ノ解釋ノ如ク米穀法ノ關
係影響ガ、生産者ニハ却テ不利益ノヤウナ
コトガ多イトシマシテモ、之ヲ尙ホ撤廢ス
ルナド、云フコトヲ考ヘタリ、唱ヘタリス
ルコトハ不穩當ダト考ヘテ居リマス、左様
ナ途ニハ出マセウガ、併ナガラ社會政策ナ
ラバ、セメテ此農業者ノ犧牲ヲ成ベク少イ
ヤウニヤッテ願ヒタイト云フ希望ハ、強ク
持出サナケレバナラヌデアリマス、若シ
又農業保護政策デアアルト云フノデアリマ
ス、何所ノ方ガ保護政府デアッテ、如何
ナル時ニ保護セラレルノデアアルカト云フコ
トヲ實ハ少シ伺フテ見タイノデアリマス、之
ヲ要スルニ若シ是ガ農業ノ保護政策ナラ
バ、農業者トシテハ洵ニ結構デアリマス、
結構デアリマスルカラ、ソレナラバ其保護
ノ實ガ舉ルヤウニ、現在ノ法律ヲモウ少シ
改正ヲシ、及運用法ノ方針ヲ改メテ保護ノ
實ガ舉ルヤウニ願ヒタイ、保護政策デアハ
ナイ、農業保護政策デアハナイ、ソレハ生
産者モ消費者モ五分々々ノ利益ノ社會政策

ト言ハレルナラバソレモ宜シイ、ソレガイ
カスト云フノデアハナイ、然ラバ其社會政策
ナラ社會政策ダト云フコトヲ明ニシテ、サ
ウシテソレヲ實施スニ當テ農業者ニ多クノ
犧牲ガ無イヤウニ云フコトヲ希望スルノ
デアリマス、農業者ヲ有利ニスルト云フノ
デハナイ、ドウラニナッテモ宜シイ、要ス
ルニ羊頭ヲ掲ゲルノナラバ羊肉ヲ賣、テ貴
ヒタイ、狗頭ヲ掲ゲルノナラバ狗肉ヲ賣、テ
貴ヒタイ、ドウラデモソレハ宜イガ、唯、
茲ニ羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ルヤウノ間違
起ラナイヤウニト云フコトガ吾々ノ切望ナ
ンデアリマス、是ハ私共トシマシテハ重大
ナル意義ダト思ヒマスカラ申述ベシタガ、
併シ是デハ何所ヲ賛成スルカト云フコトノ
意義ガ不明デアリマスカラ、最後ニ一寸私
ハ賛成スルカト云フ要旨ヲ申上ゲタイノデ
アリマス、ソレハ第一米穀法ノ使命ノ何カ
ト云フコトガ從來ノ疑義デアル、從來ノ内
閣デハ量ノ調節デアアルト斯ウ言フテ居タ、
所ガ量ノ調節ダトシテ見ルト、ドウシテモ
米穀法ノ目的使命ヲ説明スルコトハ出來ナ
イノデアリマス、昔ノ天明トカ、享保時代
ノヤウナ時ナラバ、量ノ調節ガ絕對ニ必要
デアッタカモ知レヌ、當時東北地方ニ必要
金銀ヲ首ニ掛ケテ餓死シタカ、伊豫ニハ
麥種ヲ枕ニシテ餓死シタカ云フヤウナコ
トガアッテサウデアリマスカラ、今日ノ進歩
シタル經濟事情ノ下ニ於テハ、價格サヘ構
ハナケレバ、即チ金ヲ出スト云フコトサヘ
問題ニシナイナラ、食ヲ物ガ無クナッテ餓
死スルナド、云フコトハ、決シテ無謀デモ
無分別デモナイト思ヒマス、ダカラ結局ノ
調節ノ目的ハ端境期ニ四百萬石ヲ繰越シ、
五百萬石ヲ繰越サナケレバナラヌト云フノ
ハ本當ノ目的デアハナイ、本當ノ目的ハ少々
不作デモ、米價ガ高クナラヌヤウニスル
云フコトモ目的デアリマスカラ、即チ價格
更ニ又量ノ調節ヲ言フテ見ルト、豐年ノ時
ニハ全ク説明ノシヤウガナイ、五穀豐饒ト
云フコトハ天下泰平ノ象徵デアルト云フコ
トハ、昔モ今モ變リハナイト思ヒマス、然
レニ氣候ガ良クテ農産物ガ大分出テ來、ソ
レガ國家社會ニ有害デアアルカラ調節ヲシ
ケレバナラヌト云フコトデハ、説明ニモ何
ニモナラナイ、唯、價格ト云フモノヲ持出
シマスルト、如何ニ物ガ澤山出來テモ、今
日ハ貨幣經濟ノ時代デアアルカラ、價ガ安カ
タナラバ金ニナラヌ、サスレバ生産經濟ガ

破壞サレル、生産經濟ガ破壞サレルナラバ
次ニ生産ニ故障ガ起ルカラ調節セニヤナラ
ヌト云フコトニナッテ、始メテ調節ト云フ
コトヲ説明ガ出來マセ、故ニ米穀法ノ使命
ハ量トシテモハ第二義、第三義デ、目標
ハ必ズ價格ト云フコトデナケレバナラヌト
思ヒマス、高イ安イ共ニ價格デアアル、ソ
レガ從來ハ曖昧デアッタノガ、現政府ニ於テ
價格ト云フコトヲ加ヘテ、サウシテ此米穀
法ノ使命ヲ明ニシタ、ソレガ吾々ノ賛成ノ
點デアリマス、從來ノ米穀法ノ運用ニ於キ
マシテ、數千萬圓ノ損得ガ始終行ハレテ居
ルノデアアルカラ、ソレハ容易ナラヌ、而モ
斯様ナ性質ノモノガ保護政策ト云フ名義ノ
下ニ行ハレテ居タト云フノハ容易ナラヌ
カラ、一應申上ゲルニ過ギヌノデアリマ
ス、今申上ゲルヤウニ要スルニ價格ガ目標
デアル所ニ、價格ヲハハッキリシタコトガ改
正ノ要點デアアルケレドモ、前段申上ゲタ
ヤウニ大ナル疑義ガアッタリ、間違ガ起ル
ト云フノハ事實ナノデアアル、故ニ此改正
依テ目的方針使命ガ明ニ示サレタ、茲ニ
大ナル進歩ガアリマスカラ同時ニ、今度ハ
運用上ニ於キマシテモ私ガ前段申述ベタ
ウナ、從來常ニ起テ居タ間違ガ起ラナイ
ヤウニト云フコトヲ切望シテ私ハ賛成ヲス
ルノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 次ハ土居通憲君
(土居通憲君登壇)
○土居通憲君 昨ハ只今上程ニナッテ居リ
マス米穀法中改正法律案外一件ニ對シ
テ、賛成ヲスル者デアリマス、是ハ頗ル簡
單明瞭ナ案デアリマシテ、委員會ニ於キマ
シテモ滿場一致ヲ以テ賛成ヲサレタ案デア
リマスカラ、今更賛成ノ理由ヲ述ベル必
要モ無イヤウナモノデアリマスルケレド
モ、極メテ簡單ニ私ハ其賛成ノ理由ヲ述ベ
カシト思ヒマス、今日農村振興ノ問題ガヤ
カミクシ唱ヘラレマシテ、此狀態デ推移ス
ルナラバ、農村ノ疲弊困憊ハ著シキモノデ
アルト云フヤウニ唱ヘラレテ居リマスル
ガ、要スルニ此農村ノ疲弊ノ原因ハ多クア
リマスルケレドモ、米價ノ高低ト云フモノ
ガ大ナル原因ヲ成シテ居ルモノト考ヘルノ
デアリマス、而シテ此米價ガ他ノ物價ニ比
較シマシテ著シク減退致シマシテ、サウシ
テ農村ノ經濟ガ破壞サル、ヤウナコトガア
ルナラバ、ドウシテモ農村ノ人々ハ經濟的
ニ安定ヲスルト云フコトガ出來ナイノデア
リマス、此米穀法ハ米價ノ調節ヲ圖テ、
而シテ農村ノ經濟的緩和ヲ圖ルト云フ目的
ノ下ニ制定サレタモノデアアルドナラマ
ス、吾々ハ此制定ニ對シテ大ナル期待マ
有シテ居リマシタニモ拘ラズ、此運用上ニ
於キマシテ數量主義ニ依テアリマスガ故
ニ、ドウモ農民ノ満足スルガ如ク此法ノ運
用ガ出來テ居ナイカノ如ク考ヘラレテ居
タノデアリマス、是ニ於キマシテ政府ハ數
量調節ノミニ依テハ、完全ナル運用ノ働キ
ヲ爲スコトガ出來ナイト云フ意味ニ於テ
「市價」ト云フ文字ヲ此所ニ入レルト云フコ
トニナッテ「市價」ヲラウト思ヒマスルガ、要ス
ルニ此市價ノ調節ヲ計テ農民經濟ノ安定
ヲ圖ルト云フコトハ、最モ時宜ニ適スルモ
ノデアラウト考ヘルノデアリマス、此意味
ニ於テ吾々ハ賛成スルノデアリマス、併
ナガラ此法ノ運用ト云フモノハ其當局者ノ頭
ノ働キニ依テ、是ガ如何ヤウニデモナルノ
デアリマスルガ故ニ、從來ノ如キ米穀法ガ
甚ダ運用上吾々ノ期待ニ副ハナイカノ如キ
感ガアリマシタガ故ニ、此「市價」ヲ入レル
ト云フ上ニ於キマシテハ、必ズ吾々農民ノ
期待スルヤウニ其運用ヲシテ完全ニ實行サ
レルヤウニ、當局者ニ於テ之ヲ切望シテ貴
ヒタイト思フノデアリマス、私ハ此案ニ付キ
マシテハ賛成ノ意ヲ表シテ、此壇ヲ降ル次
第デアリマス

○議長(粕谷義三君) 是レニテ通告者ノ發
言ヲ全ク終リマシタ、仍テ討論ハ結局サレ
マシタ、先刻東郷君ヨリ米穀法中改正法
律案ニ關シマシテ、附帶決議ガ提出サレテ
居リマス、是ハ先決問題デアリマスカラ、
先ツ附帶決議ヨリ採決ヲ致シマス、東郷實
君ノ附帶決議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマ
ス

(賛成者 起立)
○議長(粕谷義三君) 起立少數デアリマ
ス、仍テ附帶決議ハ否決サレマシタ、尋デ
兩案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シ
マス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマ
セヌカ

(異議ナシニ異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○作問辯邊君 兩案ヲ一括シテ直ニ第二讀
會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報
告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
(「賛成」「賛成」ト呼フ者アリ)

ノ大臣ノ説明テ十分ニ受取レカイノ云

信ジ、日本ノ國民ヲ信賴シテ、モット自由ニ、斯ウ云フ法案ヲ出サナド、自由ナル此立憲政治ノ根本ニ復テ、思想政策ノ樹立ノ上ニ一體如何ナル考ヲ持テ居ラレルノデアルカ、其根本ヲ承リタイノデアリマス、私ハ當初政府ガ出來マシタ時ニ、無論此政府ハ普通ヲヤル、貴族院ノ改革マシタル、此二大政綱カラ發スルモノトシマシタル、當然現在ノ古臭イ新聞紙法ハ改正スルニ相違ナイ、現在ノ古臭イ治安警察法モ改正スルニ相違ナイ、斯ウ云フモノガ進ンデ普通選舉ヲ提出スル前ニ一體出ル答デハナイカ、今ニ新聞紙法ノ改正モ治安警察法ノ改正モ出テ來ナイ時ニ、俄ニ未ダ十分ニ三派ガ練ルニ練テ練ラナイ前ニ斯ウ云フモノガ現レルト云フコトハ、私ハ洵ニ遺憾デアリマス、故ニ今日ノ世相ヲ見マシテ政府ハ思切タ自由ノ政策ニ出ヅル御意思ハナイカ、今後如何ナル方針デ此日本ノ思想、此日本ノ社會現象ニ對スル態度ヲ執ラレカ、此根本ニ付テ十分ノ御説明ヲ先ヅ第一ニ承リタイノ思フノデアリマス、第二番目ニハ此提案ヲサレマスマデニ、内務大臣或ハ司法大臣ハ有志ト會見サレマシテ、色々ノ説明ヲサレマシタ、是ハ過激法案トハ全然違フノデアル、過激法案ノ如キ内容ハ有テハ居ナイト云フコトヲ色々御説明ガアリマシタガ、私ニ靜ニ之ヲ見マスレバドウシテモ往年憲政會ハ、殊ニ革新俱樂部ハ此壇上ニ於テ、實ニ色々ナル奮闘激戰ヲシテ之ヲ葬タ、其歴史ヲ持テ居ル所謂社會運動取締法案、其沿革ヲ持テ居ルモノデアル、其變形デアルト云フコトハ、是ハドウシテモ私ハ否マルナドト思フノデアリマス、此歴史此沿革ヲ持テ居ル法案、而シテ輿論ハ既ニ此法案ノ文字ヤ或ハ字句ヨリモ、サウ云フ案ヲ出スト云フ其思想ノ根柢ニ疑ヲ挾ンデ、文句ヤ條文ヨリモサウ云フ案ヲ出スト云フ政府ノ方針ニ對シマシテ、既ニ反對ノ世論ガヤカマシノデアリマス、之ヲ見テモ尙且ツ此普選ヲ斷行シヤウ、貴族院ノ改革ヲヤラウト云フ内閣ニシマシテ、私共ノ、其他ノ部面ニ於テハ絕對ニ信賴スル内閣ニシマシテ、尙ホ之ヲ出サウト言ハル、ハ、或ハ世上流布サレテ居リマスル現内閣ノ大方針デアアル、成立ノ根本トモ謂フベキ即チ普選ヲ能ク通サンガ爲ニ、貴族院ノ改革ヲ完全ニ遂行センガ爲ニ、其

障礙ヲ突破スル一ノ手段トシテ、或筋ヨリ交換ノ如何カ條件ヲ附ケマシテ、已ムナク斯ウ云フ案ヲ出シタノデハアルマイカ、ソレナラバ多少私共モ同情スル點ガアルノデアリマス、然ラバ修正ノ如キハ思切タテ修正シテ宜イ、斯ウ云フ御意見デアリカドウカ、此點ハ可ナリ世間ニ思フノデアリマス、第四番目ニハ——未ダ澤山ノ質疑者ガアリマスカラ、私ハ小サイ事ハ問ヒマセヌガ、本法案ノ根本トモナッテ居リマスル三ツノ字句ニ對シマシテ、御尋シタイト思フノデアリマス、第一ハ第一條ニアリマス所「國體」ト云フ文字、日本ノ國民ニ國體ノ變革、斯ウ云フコトヲ望ム者ハ一人モアルトハ信ジナイ、併シ假ニアルトシマスレバ、ソレハ今日ノ刑法デハ取締ラレザルヤ、又「國體」ト云フ文字ガ所謂法文ニ現レルトスルノハ是ガ初メテ「國體」ト云フ文字ニ付テハ、今日大學ノ教授ニスラ色々ノ議論ガアルガ、政府ハ一體之ヲドウ云フ風ニ解釋サレルノカ、具體的ニ說明ヲシテ欲シ、現ニ彼ノ美濃部、上杉兩博士ノ憲法論爭ニ、國體ト政府トハ區別ナシト云フデハナイカ、今日尙ホ疑義アル文字ヲ使フノハ如何デアアル第二ハ「政體」ト云フ文字デアリマス、政體ノ變革ハ狹ク解釋シマスレバ、是ハ立憲政體、所謂民選制度ニ依ル所ノ今日ノ議會制度ノ變革ト云フコトニナルノデアリマセウ、ケレドモ之ヲ廣義ニ解釋シマスレバ、樞密院ガ法制局ノヤウニヤカマシ、アンナモノハ廢シテシマヘト云フコトハ、是ハ即チ政體ノ變革デアアル、貴族院ヲ廢スベシト云フ若シ此運動ヲセンガ爲ニ結社ヲ造ル、言論ヲスル、是即チ政體ノ變革デアアル、是ガ政體ノ變革デナイト云フコトハ、ドンナニ說明シマシテモ、此二字タテヲ以テハ到底ソレハ説明ヲシ切レナイ、若シ斯ウ云フ法案ガ通過シマシテ、是ガ司法當局ノ手ニ移タル場合ニ於キマシテ、廣イ意味ニ解釋サレ、若シ貴族院ノ改革運動、或ハ樞密院ヲ廢止スベシト云フヤウナコトガ此法案ニ觸レマシテ、十年モヤラレト云フコトハ、是ハ實ニ由々シキ日本ノ立憲政治ヲ毒スルモノデアッテ、御互ガ未ダ立憲政治ヲ布キマシテ漸ク三十有餘年、日本ノ國體モ變ラナイ、日本ノ國體ヲ基礎トシテ、モットヨリ良キ政體ヲ造リタイト云フ

コトハ、是ハ人間ガ進化スル、社會ガ進化スル原則デナケレバナラヌ、ソレヲモ止メテシマフト云フコトハ、是ハ所謂非常ナ非立憲ナル文字デアッテ、此點ニ關スル明カナル御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、成程普通選舉ヲ斷行シ、貴族院改革ヲヤラントスルヤウナ内閣ガアル場合、此立法ノ趣旨ガ十分徹底シタル場合ニ於テハ、マサカ斯ウ云フ法案ガ通過シマシテモ、如何ニ沒曉漢ノ裁判官デモ、貴族院ノ廢止、樞密院廢止論ヲ以テ、十年ニ罰スルヤウナ者ハ無イカモ知レナイカ、併シ此内閣ガ迷テ、無反動内閣ガ天下ヲ取りマシテ、此條文ヲ楯ニ取テ若シ言論ヲ壓迫シ、結社ヲ壓迫スルナラバ——私ガ假ニ當局者トナッテヤラナラバ此法案ノ一條デ以テ、日本ハ大部分ノ結社ヲ踏潰スコトガ出來ル、若シ普通選舉ガ布カレタ後ニ於キマシテ、無產政黨ガ出來ルナラバ、之ヲ解散シテ之ヲ縛ルコトモ出來ルノデアリマス、ダカラ斯ウ云フ茫漠タル文字ヲ書カレルト云フコトハ最モ遺憾デアリマス、内務大臣ハ之ニ對シテ如何ナル考ヲ持テ居ラレルカ、第三ニハ所謂「私有財産ノ制度」ト云フ文字デアリマス、是モ先程來既ニ度々論議サレマシテ、有志ノ會見ニ於キマシテ大臣モ御説明デアリマシタガ、鐵道國有ヲ斷行シタ日本ノ政治、土地國有論ノヤカマシイ今日、電力國有ノヤカマシイ今日、此國有ト云フモノガ此私有財産制ニ反シタル制デアリ、共產ト云フ言葉ニハ當ラナイケレドモ、其思想ノ根本ニ於テハ、ソレト同ジ所ノ意味デアルト云フコトハ、是ハ學說上日本ノ將來ハ土地ノデアリマス、私ハ寧ろ日本ノ將來ハ土地國有、或ハ面白イカモ知レナイ、船舶ノ國有、是モ面白イカモ知レナイ、是モ面白イ、コゴガ宜イイト計算シタ所ガ何ガ後ニ殘ルカ、若シ學者ガ所謂經濟上生産ニ屬スルモノハソレハ宜イ、消費ニ關スルモノハイケンナイ、斯ウ云フ風ニ別ケテ見マスレバ、家庭ノ基礎タル家屋ノ如キハ、是レ最モ大ナル消費財産デアリマスケレドモ、日本ノ將來ノ社會ヲ本當ニ考ヘテ見マスレバ、或ハ家屋ノ如キハ市營、國營ガ宜イカモ知レヌ、斯ウ云フ議論ヲ以テ御互ガ或ハ團體ヲ作テ其思想ヲ宣傳スル場合ニ、眞ニ社會ヲ思ヒ、日本ノ將來ヲ思フテヤル事ガ却テ禍ヲシテ、十年ニ問ハレルト云フ結

果ニ相成ラヌカ(拍手)若シ司法當局ガ——裁判官ガ狹ク廣ク此文字ヲ自由自在ニ使ハレタ際ニ於テハ、御互ハ非常ナ脅威ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ此「私有財産」ト云フ文字ニ付テハ、私有財産制ノ根本ニ付テ考ヘルニ、日本ハ他ノ國ヨリモ或意味ニ於キマシテ家族本位ノ國柄デアアル、此家庭本位、家族本位ノ此思想ヲ日本ノ社會ニ合致セシメ、日本ノ政治ヲ能ク運用スルコトニ依リマシテ、日本ノ國體ハ發揮出來ルト思フノデアリマス、諸君、家庭ノ本位、家族主義ノ根源ハ何デアアルカ、ソレハ言葉ハマズイケレドモ、一種ノ共產デアアル、家庭ガ平和デアレバアルダケ家庭ハ專制デナイ、ソコニ日本ノ思想ガアル、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ、茲ニ日本ノ將來ノ思想ニ於キマシテ、ドウシテモ斯ウ如キ文字ヲ採ルト云フコトハ、非常ナ間違デアルト思フデアリマス、第四番目ニハ本案ノ第二條ハ、學問ノ研究ヲ非常ニ尊重スルコトニハナラナイカ、凡ソ大學ノ教授ハ、學問ノ研究ヲスルノガ國家ニ命ゼラレタル所ノ使命デアリマス、國家ニ關スル學問ヲスル爲ニ極端ニ自由ヲ許サヌケレバナラヌ、其爲ニハ進んで新シイ社會組織ヲ研究シタケレバナラヌ、其組織ヲ研究シマスルコトハ、若シ本法ニ觸レルヤウナ心配ハ無キヤ、先般我ガ全國高等學校ノ最モ純真ナル青年達ガ社會學研究會ヲ開キマシテ、中ニハ一二少シ脱線シタノガアツカモ知レマセヌケレドモ、眞ニ今日ノ社會現象ヲ見テ純真ナル青年ガ研究シタイト云フノハ、是ハ慶ベキ事デアリマス(ノウ)然レハ文部大臣ハ其當局ヲ通ジマシテ之ヲ解散セシメ、福岡ノ高等學校デハ、二名以上ノ學生ガ一緒ニナッテ社會學ヲ研究シタラ、嚴罰ニ處スル、放校ニ處スルト云フ、佐賀ノ高等學校デハ書物ヲ燒イテシマハシタ、鹿兒島ノ高等學校デハ或ル學生ヲ放校センタル、熱心ニ純真ナル心ヲ持チマシテ研究セントスル是等ガ若シ之ヲ壓迫シマシレバ、却テ秘密ノ結社ヲ作り、サウシテ純真ニ研究スル者ハ之ニ觸レル心配ハ無イカ、是ニ於テ日本ノ大學ノ教授ハ、新聞紙上其他ニ於テ相當犧牲ヲ拂テ居ル、私ハ第二條ハ殊ニサウ云フ所謂學問ノ自由、研究ノ自由ヲ阻碍スル虞ハナキヤ、而シテ第三條ニ「煽動」ト云フ文字ガアル爲ニ、言論機關、殊

ニ新聞紙ノ非常ナ脅威ナラザルヤ、私ハ以上ノ四項ニ涉リマシテ、本案提出ノ根本ノ政府ノ思想、思案、而シテソレニ起ル所ノ字句ノ一二ニ付キマシテ、明快ニ説明ヲ聴キタイト思フデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 若槻内務大臣

(國務大臣若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 星島君ノ御質問ノ第一點デアリマス所ノ人類ノ向上ヲ圖ルニ付テハ、思索ノ自由ヲ許シテ置カヌケレバナラヌト云フ御議論ニ對シテハ、私モ全然同意デアリマス、而シテ現内閣ハ思想ノ研究ニ付テハ、壓迫の方針ヲ採リ居ルヤ否ヤト云フ御質問ニ對シテハ、決シテ左様ナ考ヘアリマセヌ、言論文章ノ自由ハ何所マデモ害セナイヤウニセヌケレバナラヌト云フ(ヒヤ) 唯、併シニハ一定ノ制限アリマス、國體ヲ破壞シテモ、經濟組織ノ根本ヲ破壞シテモ、言論文章ノ自由デアルト云フコトデハ國家ノ治安ヲ保ツコトハ出來マセヌ(拍手)、ソレデアリマス故ニ言論文章ノ自由ハ何所マデモ尊重致シマスケレドモ、其害毒最モ甚シキモノハ取締リテ置カテレバナラヌト云フノガ、今日此治安維持法ヲ提出シタ所以デアリマス、後ニ御質問ニ付テ居ル事項ニ御答申上ゲルト、自然ニ判リマス、此度ノ法律ガ抽象的ノ文字ヲ使ハズシテ、國體ヲ變革スルコトカ、政體ヲ變革スルコトカ、私有財産制度ヲ否認スルコトカ云フ具體ノ文字ヲ用キテ、決シテ曖昧ナ解釋ヲ許サヌト云フコトニ致シマスシタコトハ、即チ言論文章ノ自由ヲ尊重スル事デアラフ、若シ餘リニ概括的、餘リニ抽象的ノ文字ヲ用キテ居ルト、議論ヲスル人、文章ヲ書ク人ガ非常ナ不安ヲ感スルノデアリマスカラ、具體的ノ文字ヲ使フテ、斯ノ如キ人ノ言論文章ノ自由ヲ害セヌヤウニ努メタリマス、(拍手)第二段ノ御質問ノ普通選舉ヲ實行シ、貴族院ノ改善ヲ圖ルコト云フ位ナ、此内閣ガ斯様ナ法律ヲ出スト云フコトハ何等カ矛盾ガアルヤウニ御考ニナシテ、何等カ他ノ勢力ニ威力ヲ受ケテ其擁護スル所トナシテ、斯様ナ法律案ヲ提出シタノデハナイカト云フ御疑念ガアルヤウデアリマス、治安維持法ヲ制定シナケレバナラヌシタノハ、現内閣ガ成立シタ初カラ決心シ

テ居タコトデアリマス、昨年十二月ノ二十三日デアッタト存ジマスガ、豫算ノ内市會ヲ開イテ各派ノ諸君ヲ招待シタコトガアルノデアリマス、其席上松田源治君カラ、治安維持法ノヤウナ法律案ヲ提出スルヤ否ヤト云フ御質問ノアタリ、私ハ現内閣ハ其法律案ヲ提出スル考デアリマス、普通選舉コトヲ答ヘテ居ルノデアリマス、普通選舉ノ法案ヲ方々デ審査セラレタノハ其以後ノ事デアリマス、其以前ニ於テ、既ニ政府ノ決心ヲ語リテ居ルノデアリマス、此法案ガ決シテ他ノ勢力ノ壓迫ヲ受ケテ立案セラレタモノデナイト云フ事柄ハ、此事實ニ依リテ明瞭デアラウト存ジマス、(拍手)第三ノ御質問ノ國體ト云フ事ノ意味ガ明瞭デナイト云フ仰セデアリマス、國體ト云フノハ前ニ申シタ通り、帝國ノ國體ハ萬世一系ノ天皇ヲ奉戴シタル帝國ト云フ、是ガ日本帝國ノ國體デアリマス、此金甌無缺ノ國體ヲ變革セント企ツル者ガアルナラバ、此法律ニ依リテ取締リシナケレバナラバ、斯ウ云フノデアリマス、(拍手)政體ト申スノハ世間學者ノ間ニモ、普通常識ヲ持テ居ル者ノ間ニモ、自ラチヤント決シテ意味ガアルノデアリマス、立憲政體ニテヤント決シテ意味ガアル、常識ニ依リテ世間ノ受取テ居ル意味ノ政體ト云フ意味デアリマス、即チ我ガ日本ニ於テ今日日本ノ政體ガ如何ナルモノデアルト申セバ、即チ立憲政體デアリマス、代議政體デアリマス、此法律ヲ破壞セントスル者ガアルナラバ、此法律ニ依リテ取締ルト云フデアリマス、日本ニ於テ今日ハ二院制度デアリマス、私ハ此二院制度ハ何所マデモ守テ行カナケレバナラヌト思フテ居ルノデアリマス、貴族院ヲ廢止スルナドト云フ考ハ私ハ全然無イノミナラズ、左様ナ考ヲ懷クコトニ向シテ全ク反對スル者デアリマス、併ナガラ貴族院ヲ廢止スルコト云フ議論ハ、決シテ政體ヲ變革スルコトニハ相成ラヌノデアリマス、世界ニハ同ジ立憲政治ノ國ト雖モ一院制度ノ國モアリマス、二院制度ノ國モアリマス、一院制度デアアルカラト云ウテ、其國ガ立憲政體タルコトハ、ハナハチモ妨ガハサヌノデアリマス(拍手)ソレデアリマスカラ、私ハ貴族院ノ廢止ニハ全然反對スル者デアリマスケレドモ、貴族院ヲ廢止スルト

云フ議論ヲ唱ヘタカラト云ウテ、決シテソレガ政體ノ變革ヲ唱ヘタモノデアルト云フコトハ言ヘナイノデアリマス、殊ニ樞密院ヲ廢メヤウト云フコトニモ私ハ反對デアリマス、樞密院ハ依然トシテ有シテ置ク方ガ宜イト思ヒマス、併ナガラ世間デ樞密院ヲ廢止シヤウト云フ議論ヲ唱ヘタカラト云ウテ、ソレハ決シテ政體ノ變革ヲ唱ヘタモノデアリコトハ殊ニ明瞭デアリマス(拍手)ソレカラ私ハ財產制度ノ否認ト申上ゲルノハ、ハナハチ財產制度ノ根本組織ヲ破壞シヤウ、斯ウ云フコトデアリマス、鐵道ヲ國有ニシヤウ、鑛山ヲ國有ニシヤウ、水力電氣ヲ國有ニシヤウ、農耕地ヲ國有ニシヤウ、是ハ私ハ決シテ私有財産制度ヲ否認スルモノデナイト思ヒマス、此法律案ニ於テハ、決シテ左様ナル事ガ範デ居ナイノデアリマス、私有財産制度ノ根本ヲ破壞シテ、共產主義ヲ行ハント云フ者ガ、即チ私有財産制度ノ否認ト云フコトニ相成ルノデアリマス、本案ノ第二條ハ、學者ガ研究ノ自由ヲ持ツコトガ出來ヌコトニナリハセヌカト云フ御疑念デアリマス、本案ハ只今申上ゲル俗ノ言葉デアラバ取締リテ法律ハ無政府主義、共產主義ヲ取締リテ法律デアラト云フモノ宜イデアリマス、唯、無政府主義ト申シモ宜シテハ共和政治ヲ主張シテモ矢張政府ガアル譯デアラフ、ソレデアリマセヌカラ、國體ノ變革ト云フ言葉ガ使テデアリマスケレドモ、大體ノ見方ハ無政府主義、共產主義ヲ取締ルト云フ精神カラ出デテ居ルノデアリマスガ、其事ヲ目的トシテ是ガ實行ヲ裁テ受ケルノデアリマス、學者ガ研究ヲシタ所ガ、其事ノ實行ヲ目的トシテ世ノ中ニサウ云フ事ヲ實現セシメントシテ相談スルノデナイ限りハ、決シテ本案ニ依リテ妨ガラレルモノデナイノデアリマスカラ、此點モ明瞭ニ申上ゲテ置キマス、尙ホ星島君ノ質問ノ事項ニハ疑念ニ關聯シテ、星島君ノ持テ居ラル、疑念ニ關聯シテ、私ハ茲ニ終リニ一言ヲ加ヘテ置クコトガ必要デアルト存ジマス、世間ニハ此法律案ガ勞働運動ヲ禁止スルガ爲ニ出來テ居ルヤウニ誤解シテ居ル者ガアルヤウデアリマス、此法律ガ制定サレマス、勞働者ガ勞働運動ヲスルニ付テ、何等カ拘束ヲ受ケルト云フヤ

ウニ信ジテ居ル者ガアルヤウデアリマス、斯ノ如キハ甚シキ誤解デアリマス、勞働者ガ自己ノ地位ヲ向上セシメルガ爲ニ勞働運動ヲスルコトハ何等差支ナイノミナラズ、私共今日局ニ當リテ殊ニ内務省ハ其所管ノ省デアリマス、左様ナ事ニ向テハ何等拘束ヲ加ヘルト云フ考ヲ持タヌノデアリマス、唯、此問題ハ前ニ申上ゲル如ク無政府主義、共產主義ヲ實行セントシテハイタヌト云フ取締法デアリマス、勞働者ニシテ無政府主義ヲ唱フモノハ非ズ、共產主義ヲ唱フモノハ非ズ、彼等ガ勞働運動ヲスルノ上ニ於テ此法律案ニ何ノ拘束モ與ヘルモノデナイノデアリマス(拍手)此事ハ世ノ中ニ誤解ガアルヤウデアリマスカラ、星島君ノ御質問ニハアリマセヌケレドモ、此際之ヲ述ベテ本案ノ趣旨ヲ明瞭ニ致シテ置キタイト思ヒマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 安藤正純君

(安藤正純君登壇)

○安藤正純君 此法案ニ付キマシテ質問ヲ致シタイト思ヒマス、其一項ハ、星島君ノ質問ニ依リマシテ、内務大臣ノ御答ニ依リテ解決スルコトヲ得マシタカラ、其點ハ略シマシテ、尙ホ私ノ不明ニ思フ點ヲ簡單ニ御答ヲ致シタイト思フデアリマス、治安維持法ヲ政府ガ提出シテラレタイ云フコトハ、其產主義、故ニ無政府主義ヲ防遏スルコト云フ其精神カラ出タコト云フ今ノ内務大臣ノ御答デアリマス、此國家ノ爲ニ毒ヲ流ス所ノ此兩主義ヲ防遏スルガ爲ニ、國家ノ前途ヲ思フ其精神ニ至シテハ勿論私モ同意デアリマス、併ナガラ之ヲ防遏スルト云フコトニ對シマシテ、斯ノ如キ法律ヲ嚴行スルト云フコトガ果シテ有利デアルカ有利デアナイカト云フコトハ、大ニ考究スベキ問題デアリカト思フノデアリマス、先年過激運動取締法案ガ議會ニ提出セラレマシタ時ニ、是ハ時代錯誤ノ法律案トシテ非常ニ不評判デアッタ、遂ニ會期ガ參リマシテ、審議未了ニ終リマシタガ、此治安維持法モ思想ノ系統カラ言ヒマスルト、矢張此思想ノ系統ヲ辿ルモノデアラウト思フ、尤モ前ノ法案ヨリハ餘程緩和セラレテ居リマス、思想ノ系統ハ同ジデアルト思フノデアリマス、殊ニ此議會ニ於キマシテ豫算總會ニ於テ、新聞紙法ノ問題ヲ私ガ御尋致シマシタ時ニ、若槻内務大臣ハ新聞紙法

モ今日ノ如キデハ自由ヲ束縛シ過ギテ居ルカラ、此點ニ向テ改正スルノ意ガアル、内務省モ目下之ヲ調ベテ居ル、但シ此議會ニ提出スルコトガ間ニ合ウカドウカト云フコトハ問題デアアルガ、政府モ改正ニハ意ガアルト云フコトヲ言明セラレテ居リマス、サウシテ見レバ一方ニ新聞紙法ノ如キモ、モット自由ニシヤウト云フ意思ガアルニ拘ラズ、一面ニ此治安維持法ノ如キヲ急イデ御制定ニナルト云フ、其思想ノ系統ガ私ニハ分ラナイノデアリマス、要スルニ思想ノ上ニ矛盾ガアリハシナイカト云フ點ニ付、今一度御尋テ致シマス、我國位昔カラ多クノ思想ヲ融和シ來テ國ハアリマセマシテ、同化セラレテ居ルノデアリマス、只今星島君モ言ハレテ居リマシタガ、儒教ガ輸入シ來テ時モ、佛教ガ輸入シテ參リマシタ時モ、將テ近ク基督教ガ輸入シテ參リマシタ時モ、ソレトモ色々ノ問題ガ起リタノデアル、併ナガラ皆是ガ渾然融和サレテ、我國ノ國民思想ノ涵養助長トナシテ居リマス、元來思想ト云フモノハ無イノデアリマス、唯、之ヲ喰止メヤウトスルノハ是ハ無理デアアル、私ハ唯、此外來思想トカ危險思想トカ云フモノハ、無理ニ止メヤウトスレモ止マルモノデハナイノ思想ガ這入テ來リ、ソレヨリハ幾ラサウ云フ思想ガ這入テ來リマシテモ、所謂此萬世一系ノ國體觀念ヲ明徴スル所ノ思想ヲ、國民ノ間ニ強ク涵養スルコト云フコトガ一番デアラウト思フ、其國體觀念ヲ確立スルコト云フコトハ、ドウシタラ宜イカト云フ、ソコガ政府ト聊カ所見ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、政府ハ其國體觀念ヲ崩スカラヌ云フ法律ヲ拵ヘテ嚴罰ニ處スルコト云フノデアリマスガ、私ハ寧ロサウ云フコトヲスルヨリハ、思想ヲ大膽ニ解放シテマス、而シテ腹ノ底カラ自由研究ヲサセテ、其結果我ガ國民ヲシテ國體ヲ自覺セシムルコト云フ、斯ウナッテ來タ時ニ本當ニ此義勇奉公ノ精神ト云フモノガ腹ノ中カラ流露シテ湧出デラノデアリナカラウカト思フノデアリマス、デアリマスカラ却テ斯ウ云フ法律ヲ拵ヘテ置クコトハ、事ニ依ルト寧ロ亂暴ナ危險思想ヲ懷イテ居ル者ヲ助長スルヤウナ結果ヲ來ス憂ハナイカト云フコトヲ深ク憂フルノデアル、併シサ

ウ云フ者モアルカモ知レナイケレドモ、大抵ノ者ハ嚴罰ニ處セラレルカラ止メテシマフダラウト斯ウ云フノデアルケレドモ、其止メルト云フハ罪ガ怖イ、七年ニナタリ、十年ノ懲役ニナタリシテハ堪ラナイカラ、一時止メルト云フノデアリマス、レハ止メテ居ルノデアリマス、底カララ、サウ云フ遣方デハ本當ノ國體觀念ノ確立ハ出來ナイ、寧ロ此國體觀念ヲ確立セシムル爲ニハ腹ノ底カラソナ無政府主義ヤ共產主義ヲ止メサセナクテハイケン、止メサセヤウノ導クコト云フコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、ソレハ其爲ニハ、斯ウ云フ法律ハ唯、目先ダケヲ一寸止メルト云フダケデ、本當ノ腹ノ中ハ却テソレガ反感ヲ助長スルヤウナ結果ニナリハスマイカ、斯ウ云フコトヲ憂ヘルノデアリマシテ、要スルニ私ハ國家ヲ憂ヘル、其精神ハ——而シテ此共產主義、無政府主義ト云フモノヲ止メタイト云フ其精神ハ政府ト少シモ違ハナイ、唯、ソレヲヤルノニ斯ウ云フ法律ヲ茲ニ作ル方ガ宜イカ、作ラナイ方ガ宜イカ、斯ウ云フコトガ見ル所ノ岐レル所デアリマス、私ハ餘リニ目ノ先ヲ抑壓スル、斯ウ云フ法律ヲ作ルト云フコトハ、寧ロ事ニ依ルト反感ヲ助長シ、斯ノ如キ惡運動ヲ助長スル結果ニナリハシナイカト云フコトヲ憂ヘルノデアリマス、此點ヲ一應御尋致シタイノデアリマス、最後ニモウ一ツ御尋シテ置キタイ事ハ、政體ノ變革ト云フコトデラ、ドウシテモ此法律ヲ作ラナケレバナラヌト、斯ウ云フコトニ政府ガ御認ニナタ時ニハ、政體ノ變革ト云フコトハ非常ナ疑義ガアリマス、隨分廣ク解釋ガ出來ル、而シテ言論ニ從事シテ居リマス——單リ勞働運動者バカリデハアリマセム、多クノ言論ニ從事シテ居ル者、新聞ニ從事ヲシテ居ル者ノ如キハ、是ガ爲ニ却テ累ヲ及ボス者ガ多ク起リテ來ハシナイカト云フコトモ考ヘテ置カナケレバナラナイ、ソコデドウシテモ此法律ヲ制定シナケレバナラヌトスレバ、此政體ノ變革ト云フ、或ハ私有財產ノ否定ヲスルコト云フコトヲ、モット明確ニ一々具體的ニ——一ツ何、一ツ何ト列舉ハアリマセムカ、如何デアリマス、此三點ニ付テ御尋テ致シテ置キタイト思フノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 若槻内務大臣(國務大臣若槻禮次郎君登壇) 過日安藤君ガ豫算總會ニ於テ新聞紙法改正ノ意思アルヤ否ヤト云フコトヲ御尋ニナリマシタ、其時ニ私ハ新聞紙法ニ付テハ若干改正ヲ要スル所ガアラウト思ヒマス、マダ調査ガ出來テ居リマセムカラ、此議會ニ提出出來ルヤ否ヤハ斷言ガ出來マセムト申上ゲマシタ、私ノ申上ゲタ趣旨ハ其意味デアリマシタガ、只今此處デ御述ニナタ故ニハ稍、敷衍シテアリマシタノデ、ソレ故ニ繰返シテ、私ハ豫算總會ニ於テ御答ヲ申上ゲタ意味ヲ此處デ申上ゲルノデアリマスガ、右ノ如キ答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、其答辯ヲ致シテ居リマス事ト、此治安維持法案ノ如キ法案ヲ提出スル事トハ、考ノ上ニ於テ大ナル矛盾ガアルヤウニ思フガ、如何デアラカト云フコトデアリマシタガ、先程モ大體ノ説明ヲ申上ゲタルキニ申上ゲテ置キマシタ通り、此法案ハ最モ極端ナル者ヲ取締ラウト云フノデアリマス、最モ國家社會ニ害毒ノアル者ヲ取締ラウト云フノデアリマス、其事柄ト新聞紙法ノ若干改正ヲ行フコト云フコトハ、思想ノ上ニ於テ何等抵觸スルコトノ無イ事柄ト私ハ信ジテ居リマス、又同ジ御考ノヤウデアリマス、日ハ本ハ外來ノ思想ヲ咀嚼シテ之ヲ融合同化スル歴史ヲ持テ居ル、ソレデアラカラ如何ナル考ガ外國カラ來テモ、之ヲ置イタナラバ、自然ニ善イ所ニ是ガ同化セラレテ行クノデアアル、而モ餘リソレヲ抑ヘントスレバ却テ反撥シテ效果ガ少イ、自然ニ委セテ置イタラバ各人ガ心中カラ覺テ來ルカラ、ソレガ宜シカラウト云フ御意見ノヤウデアッテ、第二段ノ御質問ガ出タヤウデアリマス、併シ事柄ニ依ルノデアリマス、無政府主義、共產主義ト云フヤウナモノヲ融合同化シヤウト言フ所ガ、私ハ到底是ハ日本ノ社會ノ根本ノ組織ニ於テ、融合ニ出來ル事デナイト信ズルノデアリマス(拍手) 斯ノ如ク極端ナル者ハ矢張之ヲ防グノガ相當デアルト思フ、又大體ニ於テハ餘リ壓迫シテ思想ヲ抑ヘ付ケヤウトスルノハ宜クナイト云フ御論ハ、私モ同感デアリマス、成ベク思想ニ向テハ寛容ナ態度ヲ執ル方ガ宜シイ、是ハ御同感デアリマス、併シ無政府

主義、共產主義ニ對シテ寛大ナル態度ヲ執ルト云フコトニシテ、其害毒ヲ國內ニ流サシムルト云フコトハ、私ハ是ハ宜シクナイトス様ニ考ヘテ居ルノデアリマス(拍手) 第三ノ御質問ハ海ニ申譯アリマセムガ、モウ一遍御繰返シテ願ヒマス、ドウ云フ事デアリマシタカ

○議長(粕谷義三君) 安藤正純君

○安藤正純君 第三ノ質問ハ此法律ガ無クトモ斯ノ如キ罪ハ刑法ナリ、或ハ治安警察法ナリデ罰スレバ宜イト思フノデアリ、若シ治安警察法ナラバ輕イトスレバ、之ヲ重ク改正スレバソレデ用ハ足りハシナイカト思フノデアリマス、併ナガラ議、テドウシテモ共產主義ヤ無政府主義防遏ノ爲ニ此法律制定ノ必要アリトスレバ、此政體ノ變革ト云フ所、或ハ私有財產ノ變革デアリマスガ、此點ヲモット具體的ニ一々條項ヲ舉ゲテ列舉ナサル御考ハ具體的ニ一々條項ヲ舉ゲテ列舉シタノデアリマス

○國務大臣(若槻禮次郎君) (續) 私ハ此法案ニ起草シテアリマスヤウナ政體ト云フ文字ハ、海ニ明瞭デアルト思ヒマス、日本帝國ニ於ケル現在ノ政體ト云フナラバ立憲君主政體デアリマス、ソレ故ニ立憲政體ヲ變革スル者ノミガ之ニ適用セラレテ、其以外ノ者ハ明瞭ナル文字ハ無イト思フノデアリマス、又私有財產制度ノ否認、私有財產制度ヲ根本カラ破壊スルコト云フナラバ、私有財產制度ノ否認ト云フ文言程明瞭ナル文言ハ無イト私ハ思ウテ居リマス、併シ若シ安藤君ニシテ、モット私ノ申上ゲルヨリ意味ガ明瞭ニ現ハレバヤウナ文字ヲ御提供下スルナラバ、ソレハ考慮致シテ見マスガ、私ハ此原案ニ在リマス政體ノ變革、私有財產制度ノ否認ト云フ言葉ガ一番明瞭デアッテ、是ヨリ明瞭ナル文字ハ只今ノ所デハ考ヘ及バナイノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 清瀬一郎君

○清瀬一郎君 只今種々ナル點ニ付テ、既ニ質問ヲ盡サレテ居リマス、又詳細ナル點ハ委員會ニ於テ伺フ機會モアラウト思ヒマス、ソレデ簡單ニ私ノ疑トスル大キナ問題ヲ四點バカリ條項ヲ舉ゲテ御尋テ致シマス、第一ハ此提案ヲ爲サル動機タル事實デアリマス、大正十一年三月ニ彼ノ過激法ガ葬ラレ

マシテカラ既ニ三年、此間ノ日本ノ思想運動、社會運動、勞動運動、總テ私共ノ見解ハ段々溫和ニナリテ居ルヲ見テ居ル、内務大臣ハ無政府主義、共產主義ノ言葉ヲ容易ク御用キニナリテ世間ノ威嚇セラル、ケレドモ、内務大臣ノ恐レラル、ヤウナ團體ガ、現存スルカドウカ、先般同僚山崎達之輔君カラシテ、刑ノ執行ノ期日ニ付テモ酌量ノ必要ガアルガ、今現ニ此法ヲ以テ處斷サル、ヤウナ結社ガ有ルノデアルカ、無イノデアルカヲ御尋ニナリサウデアリマス、ソレニ對シテ山岡刑事局長ハ、秘密結社ハ現ニ治安警察法デ處罰シテ居ル、公然ノ結社デ本法ニ觸レルヤウナモノハ無イト御答辯ニナリテ云フコトデアリマス、改メテ内務大臣ニ御何致スガ、此法律ヲ作テモ之ヲ適用スルヤウナ結社ナドガ、今現在ニ有ルノデアルカ、無イノデアルカ、若モ御發表ニ差支ラル、ナラバ、秘密會ヲ以テ御聞キ致シテモ宜シイ、吾々國政ニ參加スル者ト致シテハ海ニ心配ニ堪ヘナイ、私ハ無イト思フテ居ルガ、内務大臣ハ如何ニモ有リサウナコトヲ言フテ此法案ヲ御提出ニナリマス、世ノ中ヲ嚇スモノデアルト私ハ見テ居ル、(ノウ) 本當ニ無ケレバ私共モ諸君ト共ニ國家ノ爲ニ祝福スルガ、若シアタ場合ニ如何ニスルカ、ソレ故ニ此點ニ對シテ明ナル御答辯ヲ本議場ニ於テ御願致シマス、ソレカラ第二ニ此提案ノ徑路デアリマス、本總理大臣モ内務大臣モ、先年ノ過激法ニ付テハ御反對ノヤウニ拜承致シテ居ル、然ルニ茲ニ突如トシテ本案ノ提出ヲ見タル、之ニ就テ世ノ中ノ人ガ色々ナリ推察スルコト云フコトハ、是レ無理カラヌコトデアル、星島君ノ御質問ニ對シ、内務大臣ハ他ノ勢力ニ強要セラレタルベキコトデアル、苟モ國家ヲ預テ居ル内閣ニシテ、他カラ強要サル、ト云フコトハ無イトハ思ヒマスルガ、他ノ方面カラ間キマスルト、彼ノ樞密院ニ於テハ、治安維持法案ハ提出スルノカドウカ、何時提出スルノカ、其内容ハドウデアルカト云フコトヲ度々質問シタル、斯ウ云フコトデアリマス、本來樞密院ハ施政ニ關與シナイト云フ立前デアリ、名ヲ普通選舉ノ法案ニ藉リテ治安維持法案ヲ出スノカ、出サヌカ、普選案ノ討論ニ於テソレヲ質問スルト云フコトハ、即チ施政ノ關與デアアルマイカト私

ハ之ヲ心配スル、ソレ故ニ樞密院ニ於テ斯ノ如キ質問應答ナカリシヤ否ヤ、殊ニ普通選舉審議ノ場合ニ此質問ガ出ナカッタカドウカ、此事ニ付テ明ナル御答辯ヲ願ヒタリ、獨リ私ノ蒙リ啓クニミナラズ、天下ノ疑ヲ解ク爲ニ必要デアリマス、第三ニ政府ハ政體ト云フハ民選ノ議員ノアルコトガ政體ダ、是ガ立憲政體デアルト、斯様ニ説明ニナリテ居ル、私共ノ信念デハ民選議員ガアルダケデハ眞ノ立憲政體デハナクシテ、此議院ノ立法政策ニ依レバ如何ナリシデモ、我國ノ事デアリマスルカ國體ノコトハ姑ク論ジマセス、事政體ニ關スルコトデモ、私有財産ニ關スルコトデモ、議會ヲ是認シテ、立法政策ニ依テ之ヲ行フ以上ハ、之ヲ寬容スルト云フコトガ立憲政體デハナイカ、(拍手) 我ハ無論共產主義者デモナケレバ、無政府主義者デモナイ、唯、併ナガラ議會ノ立法ニ依テテ所有權ニ關スル制度ヲ作ルト云フコトナラバ、之ヲ許スト云フコトニ我國ノ政體ガアル、是ガ出來ナイト云フコトハ、即チ却テ政體ノ變更デアル、若シ政體ノ變更ヲ文字通り議スベクシバ、本案ノ如クニ財產權、所有權ノ事デアリマス議會ノ立法デ以テ之ヲ議スルコトガ出來ナイヤウニスルト云フ此法案コソ、我國ノ政體ヲ變更スルモノデハナイカ、大正十二年ノ三月ニ英吉利ノ議會ニ於テハ、勞動黨ハ今日ノ資本主義制度ハ、天然資源ヲ十分ニ利用スルコトニ失敗ヲシテ居リ、殊ニ多數國民ハ必需品ヲ得テ居ラヌ、此失敗ノ原因ニ鑑ミテ、私有制度、生産分配ノ管理ハ、漸次此議會ニ於テハ、民主的管理ヲ基礎トセル生産的社會組織ニ向テ努力センコトヲ決議スト云フ決議案ヲ提案シテ居ル、是ハ内務大臣ノ言ハレタル土地ノ國有ダケデモナク、鑛山ノ國有ダケデモナイ、船舶動産ノ國有ダケデモナイ、總テノ經濟組織ヲ民主的の管理ノ下ニ置クト云フコトヲ、漸次ヤラウデハナイカト云フ決議案、賛否如何ニ拘ラズ、斯ノ如キ決議案モ認容セラル、ト云フ所ニ立憲政體ノ價值ガアル、議會ニ於テ之ヲ爲シ得ルト云フ以上ハ、政黨ノ政綱政策ヲシテモ之ヲ許サナケレバナラヌ、政黨ハ結社デアル、今將來無產政黨ガ出來テ、斯ノ如キ政綱政策ヲ以テ日本ノ議會ニ臨ミ、之ヲ議場ニ提出シヤウト云フコトヲ申スナラバ、是ヲモ寬容スルト云フ所ニ明治大帝

ノ下サレタ憲法ノ精神ガ在ルノデハナイカ、ソレガ我國ノ憲法ノ精神デアル以上ハ、其精神ヲ打破スル所ノ此治安維持法案コソ、我國ノ政體ノ破壞ヲ企テルモノデハナイカト私ハ考ヘタルデアリマス(ノウ) 此點ニ關シテ條理井然タル御答辯ヲ求メマス、第四ニ本法施行ノ影響デアリマス、若シモ第一ノ問題ニ對シ、本法ガ實行サル、ト云ウテモ、只今之ヲ適用スベキ事案ガ無イト云フコトナラバサマアルベシ、將來モ是ガ無ケレバ益、仕合セデアル、所ガ本法ノ如キモノガ制定サレテ、苟且ノ結社モ十年ノ刑ニ處セラレ、苟且ノ文章モ亦煽動ヲ以テ論議セラレ、本案第六條ハ自首ヲシタ者ハ之ヲ無罪ニスルト云フコトニ相成テ居ル、是ハ何カト申スト、彼ノ間諜「スパイ」政略ヲ使テモ宜イト云フコトニナル、(「スパイ」政略ヲ使テモ宜イト云フコトニナル、警察、國家、附屬物デアアル、星島君モ論ジ及バレタガ、露西亞ノ國ノ崩壞、獨逸帝國ノ倒壞、其本ヲ質スト云フト自首シタ「スパイ」ヲ無罪ニシテ、憂國ノ士ヲ牢獄ニ投ジ、積リ積リ怨ガ重テ遂ニ國家ノ組織ヲ破壞スルコトニナリタ、此十年ノ刑ヲ以テ之ニ臨ミ、「スパイ」ヲ自由自由ニ任便シテ、ソレデ我國ノ將來ハ如何ニナルト思召スカ、私共ハ我が國體ノ變更ニハ無論異存ガアルケレドモ、安藤君モ言ハレタ通りニ、之ヲ防グニハ法律ヲ以テスベキモノデハナイ、法律ハ固ヨリ萬能デハナイ、況ヤ思想取締ニ對シテハ法律ハサマデ効力ノ無イモノデアル、法律ヤ國家ノ權力ヲ以テ國體ヲ維持シヤウ、我國ノ政體ヲ維持シヤウト云フコトハ洵ニ淺基ナ企デアツ、今マデノ多クノ政治家ハ悉ク之ニ失敗ヲ致シテ居ル、一々此處ニ例證ヲ取ルニハ及バヌ、今現在ニ治安警察法デ處分シテ、ソレデ吾々ハ斯ノ如ク安全ナルノカ、明日カラ此法規ヲ作テ、此法律施行ノ結果ニ付テ内務大臣ハ如何ニ思召スカ、私ハ法案ノ文字ニ付テハ種々疑義ヲ持テ居リマス、併ナガラ提案者ノ説明ハ法律ヲ執行スル者ノ參考ニハナラナイト云フ信念ヲ持シテ居ル、立法者ノ意思ハ法律ノ意思ニアラズ、況ヤ今日代議政體ニ於テ、提案者ノ説明ヲ賛成者ノ賛成スル意思トハ合致シナイ場合ガアルノデアルカラシテ、内務大臣ノ提案理由ト議員ノ賛成理由トニハ、齟齬ノアルコトガアリ得ルノデアリマスガ

故ニ、格言ニモアル通りニ法律ハ自身ヲ以テ解釋セシ、此法律ガソレ自身ヲ以テ解釋セラレ、總テノ國體ニ關スル問題、政體ニ關スル問題、國際聯盟ハ我國ノ天皇ノ大權ヲ制限スル「レフエレンダム」ハ代議政體ヲ破壞スルナドト申サレテ、日本ノ國ヲ落シ穴ダラケノ國ニ爲サル、ト云フコトハ、眞ニ國家ヲ愛セラル、政治家トシテハ如何デアラウカ、ハ衷情ヲ披瀝シタル御答辯ヲ求メテ次第デアリマス(答辯無用)ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 若槻內務大臣(國務大務若槻禮次郎君登壇) 法案ガ成立致シマス、直ニ此法律ニ依テ制裁ヲ加ヘラバ、只今左様ナ見込ヲ立テ、居ル者ハアリマス、併シ目下無政府主義、共產主義ト云フ思想ニ依テ、危險ナル考デ行動シテ居ル者ハ澤山アリマス、之ニ付テハ委員會ニ於テ御要求アリマスレバ、十分ニ事實ヲ説明スル積リデアリマス、提案ニ至リマス間ノ徑路ニ付テ御尋デアリマス、今ノ總理大臣並ニ若槻ハ、貴族院議員トシテ此前ノ過激社會運動取締法案ニ反對デアッタヤウデアルガ、今日提出スルト云フコトハ、如何ニ辯解シテモ何處カラカノ勢力ノ強要ヲ受ケテ居ルニ相違ナイト云フヤウナ御質問ノヤウデアリマス、過激社會運動取締法案中ニハ、朝憲紊亂ノ事項トカ、社會ノ根本組織ト云フヤウナ文字ガアリマス、餘リ具體的デナカッタ、具體的デアリマセスト、言論文章ハ大ニ其自由ヲ害セラハ、ノデアリマスカラ、私共ハ之ニ賛成スルコトヲ躊躇シタルデアリマス、此度ハ左様ナ概括的ノ文字ハ一ツモ使フテナイ、總テ具體的ニシテアルデアリマスカラ、全ク言論文章ノ自由ヲ妨ゲタルコトハ全クナイノデアリマス、此點ハ能ク明ニシテ置キタイノデアリマス、而シテ樞密院ニ於テ此法案ノ内容ヲ問ハレタカ、何時提出スルカト云フヤウナ問答ガアルコト云フコトヲ此處デ明言セヨト云フコトデアリマス、樞密院ノ會議ハ總テ秘密デアリマス故ニ、私ハ此處デ説明ヲ致スコトガ出來ヌノデアリマス、政體ノ變革ト云フコトガ、私有財産制度ノ否認ヲ議會ガ議スルコトガ出來ナケレバ、政體ノ變革ニナルト云フ御論デアリマスガ、私ハ何處カラサウ云フ結論ガ生

ジテ來ルカ理解スルコトが出来マセヌ(拍手)政體ノ變革ト云フノハ立憲政體ヲ變革スルコト云フコトデアリマス、ソレカラ此法律ヲ施行シタルバ、其影響ガ如何ニナルカト此法律ヲ施行シタルキニ其影響ハ如何ニナルカト云フコトデアリマス、前ニ申上デマシタ通り、是ハ全般ニ於テ取締ヲスルノデアリマス、只今此處デド問題ヲ制裁ヲ加ヘルト云フ考デ制定セントスルノデアリマス、唯、清瀬君ノ申サレマシタ所ノ、法律ハ法律自體デ解釋スベシ、立法者ノ意見ハ法律ノ意見ニ非ズト仰セニナル點ニ付テハ、一言ヲ申上デ置カテバ、ナラヌ、此法案ノ如キ洵ニ文句ガ明瞭ニシテ、一點ノ疑ナイト思フモノヲ、裁判官ガ特ニ之ヲ曲ゲテ、清瀬君ノ御心配ニナルヤウナ所カラ之ヲ持テ行クコト云フコトハ、私ハ全然ナシト思ヒマス、併ナガラ裁判官ガ若シ此明瞭ナル法文ニ付テモ、尙且ツ疑ヒヲ挟ムナラバ、其時ハ此帝國議會ニ於テ之ガ論ぜラレ、然レ後結局決定セラレトキノ意思ガ如何デアット云フコトガ最も大ナル力ヲ持ツモノデアリマス、ソレヲ無視シテ裁判官ガ裁断スルナド云フコトガアリマス、ソレハ裁断官ハ適當ナル法律ノ解釋ヲ爲サバ、モノデアルト申サナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 鳩山一郎君

(鳩山一郎君登壇)

○鳩山一郎君 私モ本法ニ付テ三ツノ疑問ヲ持テ居リマス、第一ト第二ト疑問ハ普通選舉法トノ關係ニ於テ、抱イテ居ルノデアアル、第三ト疑問ハ會テ提出セラレマシタ所ノ過激社會運動取締法、此關係ニ付テ持テ居ルノデアリマス、第一ノ疑問ハ會テ大正八年、普通選舉法ノ議論ガ當議會ニ現ハレシタトキニ、憲政會ノ諸君ガ二選ノ納稅資格ヲ以テ適當ナリトシテ、普通選舉法案ニ反對セラレタコトガアル、其反對ノ理由ハ、今ヤ人心動搖ノトキ、普通選舉法ヲ實施スルコト云フコトハ極メテ危險ナル、此人心動搖ノ治マル所ヲ見テ、然レハナイカ、私ノ下度前面ニ坐シテ居ルハ、所ノ齋藤隆夫君ノ口調ヲ以テ之ヲ言ヒマス、然レハ、風ノ吹キ模様ヲ見、治マル所ヲ見テ、議論デアット記憶シテ居ルノデアリマス

ス、即チ普通選舉法ト云フモノハ人心動搖セザルトキニ提出スベシト云フ御議論デアッタ、本日普通選舉法ノ提出セラレ、即時斷行ヲ御議論セラル、ナラバ、其前提トシテ人心動搖セザルト云フ事實ガ、確定セラレテ居ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、ガ、若シ果シテ然ラバ、何ヲ苦ンデ治安維持法ヲ御出シニナルノカ、其理由ハ最初ニ御尋フ致シマス(拍手)第二ノ理由ハ若槻內務大臣ハ、選舉權附與ノ理由ハ政治能力有無ニ依ッテ決スベシト云ハレタ、之ニ對シテ義務教育機關ノ延長ヲ此理由ニ依ッテ主張セラレタコトモアリマス、義務教育ヲ延長セズシテ既ニ政治能力アリトシテ、而モ此普通選舉ト云フモノハ、全ク無制限デアッタ、二十五歳以上ノ青年男子總テ政治能力アリトシテ普通選舉ヲ實施セラレントスルノデアリマス、甲乙乙御五ニ議論ヲ聞イテ其是非ヲ判斷スル能力アル者ガ、之ガ多數デアルトシテ普通選舉法ヲ實施シテモ宜イト云フ御議論ヲ立テラレタノデアリ、斯様ニ普通選舉法ガ無制限ニ實施スベシト云フ時代ニ於キマシテハ、思想ヲ自由ニ委スト言フテモ、決シテ國家ニ不利益ヲ來スコトガナイデアアリマス、此點ニ到達セザルヲ得ナイノデアリマス、此點ニ付キマシテモ若槻內務大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シタノデアリマス、第三ニ過激社會運動取締法案、之ニ付キマシテモ先來若槻內務大臣ハ、以前ノ法案ハ荒漠トシテ居タ、今回ハ國體政體ノ變革、私有財産制度ノ否認ト云フヤウナ具體的ノ事實ヲ列記シテ居ルカラシテ、今回ノ法案ハ洵ニ正義明瞭デアルト申サレタノデアリマス、以前ノ提案ニ就テ見レバ、朝憲案リトカ、社會ノ根本組織ノ破壞トカ云ヘバ、是等ノ文字ダケヲ切離シマシテ議論ヲ致シマシタナラバ、或ハ疑ハレタカモ知レナイノデアリ、併ナガラ朝憲ヲ紊亂スル、社會ノ根本組織ヲ破壞スルト云フノニハ、制限ガ附イテ居タノデアリ、即チ外國人ト通謀ヲシテ朝憲ヲ紊亂スル、外國人ト通謀シテ社會ノ根本組織ヲ破壞スルト云フ文字デアリマシタラバ、丁度今日此立法ノ主旨説明ニ依リマシテ、若槻內務大臣ガ茲ニ御述べ、ニナッタ議論ノ全部ト云フモノハ丁度外國人ト通謀シテ朝憲ヲ紊亂スル、外國人ト通謀シテ社會ノ根本組織ヲ破壞スルト云フコトニ結局ナルノデアリ、即チ若槻內務大臣ノ説明ノ

全體、説明ノ精神ヲ酌シテ取リマシタナラバ、此治安維持法案、前回提出セラレマシタ過激社會運動取締法案トハ、全ク同一ナモノデアリト云フ差支ナイノデアリ、其過激社會運動取締法案ガ出タトキニ、憲政會ノ諸君ハ之ニ反對セラレタノデアリ、今日掌ヲ翫スガ如ク、其説ヲ變ゼラレタノ理由何處ニ存スヤト云フコトニ疑ヲ懷キノデアリマス、其變説ノ理由ヲモ伺ヒタイノデアリマス(拍手起ル)

○議長(粕谷義三君) 若槻內務大臣

(國務大臣若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 鳩山君ノ御質問ニ御答ヘ申上デマス、普通選舉ヲ行フヤウニナッタ今日デアレバ、思惟ハ健全ニナッタ居ルデアラウカラ、本案ハ必要ナイノデアリマス、第一問デアリヤウデアリマス、普通選舉ヲ實行シテ宜イ時期ニ今日ハナッテ居ルト思ヒマス、是ハ教育ガ普及シテ居ル、國民ノ智能ガ開發セラレテ居ル、文化ガ進ンデ居ルト云フ點カラ見テ、其時代ハ來ッテ居ルト思ヒマス、併ナガラ其間ニ洵ニ困タコトニハ、意思ノ薄弱ナル者ニシテ不健全ナル思想ヲ持テ居ル者ガアルノデアリマス、ソレデ此法律案ノ必要ガアルノデアリマス、又第二點ハ普通選舉ヲ實行スルヤウニナッタナラバ思想ハ自由ニシテ置イテ宜カリサウナモノデアアル、斯様ナ取締ノ案ハ要ラナイノデアラウ云フ御質問ノヤウデアリマス、是ハ第一ニ御答ヲ致シマシタ同様デアリマシテ、普通選舉ヲ行ヒマス時代ニ於テモ、洵ニ遺憾ナルコトデアリマス、茲ニ一部ニ危險ナル思想ヲ懷イテ居ル者ガアリマス以上ハ、本法案ノ必要ガアルノデアリマス、第三ノ御尋ノ過激社會運動取締法案ト本法案トハ同様デアルト云フ御見解、是ハ大變ニ違ッテ居リマス、其違ッテ居リマスコトハ、先程比較シテ申上デタノ明瞭デアルト存ジマス、尙ホ委員會ニ於テ詳シク其差異ヲ申上デテ、兩案ノ違ッテ居ル所ヲ明カニ致シマス(拍手起ル)

○議長(粕谷義三君) 次ニ田嶋信藏君

(田嶋信藏君登壇)

○田嶋信藏君 私ノ御尋セントスルコトハ、既ニ二三ノ方ニ依ッテ盡サレテ居タノデアリマス、併ナガラ私ハ一二ソレニ付テ補足シテ御尋シタイノデアリマス、若槻內務大臣ハ大正十一年ノ過激思想社會運動ノ取締法案ニハ、具體的ナル文字ガナカ、ヲ示サレテ居ルノデアリ、斯様デアリマス、是レ私ガ立憲政治家トシテ斯様ナル言辭ハ私ハ諷言ナリト斷スル者デアリマス、何故カト申シマスレバ、其當時ノ憲政會諸君並ニ革新俱樂部ノ諸君ガ、此壇上ニ於テ論ゼラレタ速記録ヲ御覽ナラバ、今日ノ日本ニ於テ政治家ト正々ナル良心ノ所有者トシテハ、斷ジテ許サズノデアリマス、幾ラ口先ハカリ國體ノ至善主義ヲ唱ヘラレマシテモ、事實ニ於テ國民ノ不平ヲ誘發スル如キコトガアッタナラバ、何等ノ效果ガナイノデアリマス、私ノ尋ネントスルコトハ、即チ我國ハ法治國トシテ法律ノ制定ハ敢テ歐米ノ先進國ニ劣ラスノデアリマス、サリナガラ最初ノ出發ハ是レ歐米ノ模倣デアリノデアリマス、斷ジテ創作的法律ハ獨立シテ無カッタノデアリ、外國ノ模倣ノミデアット私ハ斷言シテ憚ラヌ者デアリマス、若シアルナラバ示シテ御覽ナサシ、此治安維持法案ガ制定サレテ、必ズ內務大臣ノ言ハ信テ共產主義、無政府主義ガ取締リ得ルト信テ出サレタノデアリマス、セウケレドモ、私ハ今申ス如クソレハ反對ナル結果ヲ見ルト云フコトヲ私ハ惜ム者デアリマス、何故故デアルカト申シマスレバ、十一年ノ過激思想社會運動スラ、貴族院ニ於テ三年ノ刑罰デアッタノデアリマス、然レ今日ハ其刑罰八十年ニナッタノデアリマス、罪ノ罰ガ殖エル程、反對ニ犯罪者ガ殖エルト云フコトハ過去ノ我國ノ事實ニ徴シテ明カデアルコトハ、內務省當局ガ御調べニナレバ明カニナルト思ヒマス、其證據ハ私ガ申スマデモナク、我が内務省ガ危險ナル思想トシテ調べ居ル事實ハ幾ラホドアルカ、内務省ノ調査ト陸軍省ノ調査ト比較シタナラバ、何レガ大デアアルカ、小デアアルカ、恐ラク内務當局ノ思想ニ對シテハ、現在我國ニ於テ第二流第三流ニ私ハ低下シテ居ルモノト信ジテ居ルノデアリマス、此意味ニ於テ私ハ内務當局ニ御尋スルノデアリ、先程ヨリ政體ノ變革ハ、明治先帝陛下ノ吾々帝國臣民ニ與ヘ給ウタ所ノ權利デアレ、吾々常ニ此立憲政體ニ謳歌シテ感激シテ居ルノデアリマス、併ナガラ内務大臣ノ言葉ヲ以テスナラバ、明治先帝ノ御恩召ニ背クモノハ即チ此治安維持法案デアルト云フコトヲ斷ジテ申ス者デアリマス(此時發言スル者多シ)

取締法律案ニハ、具體的ナル文字ガナカ、ヲ故ニ、今回ノ治安維持法案ハ具體的ニ之ヲ示サレテ居ルノデアリ、斯様デアリマス、是レ私ガ立憲政治家トシテ斯様ナル言辭ハ私ハ諷言ナリト斷スル者デアリマス、何故カト申シマスレバ、其當時ノ憲政會諸君並ニ革新俱樂部ノ諸君ガ、此壇上ニ於テ論ゼラレタ速記録ヲ御覽ナラバ、今日ノ日本ニ於テ政治家ト正々ナル良心ノ所有者トシテハ、斷ジテ許サズノデアリマス、幾ラ口先ハカリ國體ノ至善主義ヲ唱ヘラレマシテモ、事實ニ於テ國民ノ不平ヲ誘發スル如キコトガアッタナラバ、何等ノ效果ガナイノデアリマス、私ノ尋ネントスルコトハ、即チ我國ハ法治國トシテ法律ノ制定ハ敢テ歐米ノ先進國ニ劣ラスノデアリマス、サリナガラ最初ノ出發ハ是レ歐米ノ模倣デアリノデアリマス、斷ジテ創作的法律ハ獨立シテ無カッタノデアリ、外國ノ模倣ノミデアット私ハ斷言シテ憚ラヌ者デアリマス、若シアルナラバ示シテ御覽ナサシ、此治安維持法案ガ制定サレテ、必ズ內務大臣ノ言ハ信テ共產主義、無政府主義ガ取締リ得ルト信テ出サレタノデアリマス、セウケレドモ、私ハ今申ス如クソレハ反對ナル結果ヲ見ルト云フコトヲ私ハ惜ム者デアリマス、何故故デアルカト申シマスレバ、十一年ノ過激思想社會運動スラ、貴族院ニ於テ三年ノ刑罰デアッタノデアリマス、然レ今日ハ其刑罰八十年ニナッタノデアリマス、罪ノ罰ガ殖エル程、反對ニ犯罪者ガ殖エルト云フコトハ過去ノ我國ノ事實ニ徴シテ明カデアルコトハ、內務省當局ガ御調べニナレバ明カニナルト思ヒマス、其證據ハ私ガ申スマデモナク、我が内務省ガ危險ナル思想トシテ調べ居ル事實ハ幾ラホドアルカ、内務省ノ調査ト陸軍省ノ調査ト比較シタナラバ、何レガ大デアアルカ、小デアアルカ、恐ラク内務當局ノ思想ニ對シテハ、現在我國ニ於テ第二流第三流ニ私ハ低下シテ居ルモノト信ジテ居ルノデアリマス、此意味ニ於テ私ハ内務當局ニ御尋スルノデアリ、先程ヨリ政體ノ變革ハ、明治先帝陛下ノ吾々帝國臣民ニ與ヘ給ウタ所ノ權利デアレ、吾々常ニ此立憲政體ニ謳歌シテ感激シテ居ルノデアリマス、併ナガラ内務大臣ノ言葉ヲ以テスナラバ、明治先帝ノ御恩召ニ背クモノハ即チ此治安維持法案デアルト云フコトヲ斷ジテ申ス者デアリマス(此時發言スル者多シ)

諸君靜ニ御聽キナサイ、明治先帝陛下ノ御製ニ何ト宣ハセ給ウタカ(此時發言スル者多シ)オ默リナサイ、淺クトモセテハ溢ルガ谷川ノ流レハ民ノ心ナルラン」ト云フ御製ガアル、此御製ノ御思召ハ那邊ニ在ル、今申上デマス如ク如何ニ其罪ヲ罰シマシテモ、思想ハ決シテ善導出來ルモノデハナイノナル、如何ニ内務大臣、司法大臣ガオ偉イ方デアリマシテモ、諸君ガ施政上思想ノ善導ニ付テ如何ナル力ヲ以テシテモ、恰モ空氣ヲ芥ニテ打ツガ如キ結果ヲ見ルノデアル、之ヲ以テ私ハ内務大臣ニ質問スルノデアル、治安維持法ノ結果ニ付テ、今御尋シタ事ハ御考慮ニナリテ居ルノカドウカ、私ハ唯、諸君ノ冷靜ナル御考慮ヲ乞フ者デアリマス、昨是今非ハ現代ノ政治家ノ常ニ執ル方法カハ知レマセヌ、併ナガラ危險思想取締法案ニ於テ罪ガ輕カッタモノガ、治安維持法ニ依テ其罪ガ十年ニナツタ理由、之ヲ内務大臣ニ問フノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 若槻内務大臣

○國務大臣(若槻禮次郎君登壇) 過激社會運動取締法案、今日問題ニナリテ居リマス所ノ治安維持法ト違ヒマスコトハ、先程申上デテ置イタ通りデアリマス、又其違ヒテ居ルコトハ此處デ何回繰返シマシテモ用ノ無イ事ト存ジマスカラ、是ハ委員會デ十分申上デマス、其他ハ田崎君ノ御意見デアリマシテ、私答辯スルコトヲ要セヌト思ヒマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 此場合田崎君ニ御相談致シマスガ、アナタノ御演說中頑迷固陋ノ貴族院云々ト言ハレマシタコトハ穩當デナイト考ヘマスガ、御取消ニナリマスカ

○田崎信藏君 只今議長カラ御注意ノアリマシタコトハ、私ハ之ヲ取消シマス

○議長(粕谷義三君) 有馬賴寧君

○有馬賴寧君登壇

○有馬賴寧君 私ハ只今提案サレマシタ治安維持法ニ付キマシテ、細カイ事ハ委員會デ質問スル機會ガアラウト存ジマスカラ、唯、一點御尋フ致シタラウト思フノデアリマス、治安維持法ノ中ニハ、「團體」ト「政體」、及「私有財産制度」ト云フモノガ同ジ條文ノ中ニ入ッテ居ルノデアリマスガ、是ハ決シテ其輕重ニ於テ同ジモノデアルト云フ考ノ下ニサレタモノデハナイト信ズル

ノデアリマス、團體ハ司法大臣ノ御話ニモアリマシタヤウニ絕對ノモノデアアル、併ナガラ政體トカ或ハ私有財産制度トカ云フモノハ、是ハ絕對ノモノデハナイト云フ御話ガアツタノデアリマス、其絕對ノモノデアアル所ノ團體ト、絕對デナイト所ノ政體及私有財産制度ト云フモノヲ、同一ニ取扱ハレル理由ハ無イ私ハ信ズルノデアリマス、私ガ御尋致シタリハ團體ノ維持ト云フコトハ、言換ヘテ見レバ皇室ノ擁護ト云フコトデアアルト思ヒマス、然ルニ此治安維持法ヲ制定スルコトニ依テ、吾々ガ日本ノ皇室ヲ擁護シヤウトスルコトニ、何等カノ支障ヲ來ス處ガナイモノデアラウカト云フコトヲ私ハ憂フル者デアリマス、勞働階級ノ青年ノ人々ノ曰ク、吾々ガ日夜殆ンド身體ヲ粉ニシテ働イテ見レモ生活ノ安定ヲ得ルコトガ出來ナイノニ、一方ニハ何等勞働モスルコトナクシテ、安逸ナル所ノ生活ヲ送ルコトノ出來ル階級ガ澤山ニアルデハナイカ、ソレハ果シテ何ノ原因ノデアリマシタト云フナラバ、其青年ノ人々ノ曰ク、ソレハ現代ノ政治ニ於テ大ナル缺陷ガアルカラデアルト云フコトヲ言デ居ルノデアリマス、此治安維持法ガ果シテ無產階級ヲ壓迫スルモノデアラカドウカト云フコトハ、ソレヲ私ハサウデアルト断定スルノデアリマセマセタレドモ、現在ノ無產階級ノ青年ノ人々ハ、確ニ此治安維持法ナラモノガ、無產階級ニ對スル壓迫デアルト感ズルデアリマス(ソレハ誤解ダト呼フ者アリ)勿論ソレハ誤解デアリマセウ、併シ誤解ヲ生ゼシメルト云フコトハ、少クトモ政府トシテノ一ツノ失態デアルト思フノデアリマセウ、此誤解ヲ無クスルコト云フコトガ勿論必要デアルニ違ヒナイト思フノデアリマス、若シ此法律案ガ無產階級ニ對スル所ノ壓迫デハナクテ、ソレガ誤解デアルト云フナラバ、尙更私ハ之ヲ遺憾トスルノデアリマス、無產階級ノ人々ガ之ヲ所謂無產階級ニ對スル壓迫ナリト感ズサウ誤解シタ場合ニ、所謂其反撥トシテ行クモノノデアアルカ、何處ニ其反撥ガ行クモノノデアラカト云フコトヲ私達ハ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、虎ノ門事件ニ付キマシテ、豫算ノ分科會ニ於キマシテ、私ハ内務大臣ニ皇室ノ警護ニ付テ御尋フシタコトガアリマス、虎ノ門事件以來皇室ノ行幸啓ノ場合ニ

於テハ、其取締警護ニ付テ、何等カ考慮サレテ所ハナイイカト云フコトヲ御尋フ時、別ニ考慮ハシテ居ナイト云フヤウナ御答辯ガアツタノデアリマス、唯、ソレハ嚴重ニサレル、勿論嚴重ニサレルコトハ必要デアリマセウケレドモ、之ヲ擁護シ、之ヲ警護スルコト云フコトハ、唯、徒ニ巡査ノ數ヲ増シ、憲兵ノ數ヲ増シ、之ヲ警護スルコト云フコトガ、警護ノ本旨デハナイト私ハ思フノデアリマス、隨テ日本ノ政治ヲ云フモノハ、唯、濫ニ斯ノ如キ取締ノ法律ヲ拵ヘテ、濫ニ取締ノミヲ嚴重ニスルコト云フコトガ政治ノ妙諦デハナイト思フノデアリマス、勿論無產階級ニ對スル所ノ壓迫ヲ目的トスル法律デハナイノデアリマセウケレドモ、斯ノ如ク感ジ、斯ノ如ク誤解スルコト云フコトノ結果ガ、果シテ如何ナル結果ヲ持來スカト云フコトヲ考ヘテ見ルルキ、治安維持法制定ノ目的ト却テ反對スル所ノ結果ヲ生ジハシナイカト云フコトヲ、私ハ憂フル者デアリマス、其點ニ付キマシテ内務大臣ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス

○議長(粕谷義三君) 若槻内務大臣

○國務大臣(若槻禮次郎君登壇) 有馬君ハ無產階級ノ人達ガ本法規定ヲ誤解シテ居ルコトニ付テ、御心配ニナリタヤウデアリマス、私モ亦無產階級ノ人達ガ本法誤解シテ居ルコトヲ深ク憂ヘテ居ル者デアリマス、此法律案ハ初ニ申上デマシタ通り、國體ノ變革、政體ノ變革、少シ俗語デ申上デテ精密ナコトデアリマセマセケレドモ、無政府主義ニ當ルヤウナ事ト、私有財産制度ノ否認即チ共產主義、此ニツノモノヲ取締ルコト云フデケデ出テ居ルノデアリマス、ソレヲ無產階級ノ人ガ、何カ自分等ガ主張スルコトヲ此法律デ妨ダラレハセヌカト云フ誤解ヲシテ居ラル、ノデアリマス、ソレハ大ナル誤解デアラル、若シ彼等ガ無政府主義、共產主義ヲ主張スル者デアラナラバ、ソレハ取締ラル、ノデアリマス、苟モ國體ヲ變革シ、政體ヲ變革スルコト云フコトナシニ、私有財産制度ヲ根本カラ破壊スルコト云フ考ガナケラナバ、決シテ無產階級ノ人ノ運動ヲ拘束スルモノデハナイトデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 若槻內務大臣

○國務大臣(若槻禮次郎君登壇) 有馬君ハ無產階級ノ人達ガ本法規定ヲ誤解シテ居ルコトニ付テ、御心配ニナリタヤウデアリマス、私モ亦無產階級ノ人達ガ本法誤解シテ居ルコトヲ深ク憂ヘテ居ル者デアリマス、此法律案ハ初ニ申上デマシタ通り、國體ノ變革、政體ノ變革、少シ俗語デ申上デテ精密ナコトデアリマセマセケレドモ、無政府主義ニ當ルヤウナ事ト、私有財産制度ノ否認即チ共產主義、此ニツノモノヲ取締ルコト云フデケデ出テ居ルノデアリマス、ソレヲ無產階級ノ人ガ、何カ自分等ガ主張スルコトヲ此法律デ妨ダラレハセヌカト云フ誤解ヲシテ居ラル、ノデアリマス、ソレハ大ナル誤解デアラル、若シ彼等ガ無政府主義、共產主義ヲ主張スル者デアラナラバ、ソレハ取締ラル、ノデアリマス、苟モ國體ヲ變革シ、政體ヲ變革スルコト云フコトナシニ、私有財産制度ヲ根本カラ破壊スルコト云フ考ガナケラナバ、決シテ無產階級ノ人ノ運動ヲ拘束スルモノデハナイトデアリマス(拍手)

樣ニ誤解ノアルコトハ洵ニ宜クナイト思ヒマス、ソレ故ニ努メテ誤解ヲ解クヤウニシテ居リマス、本法案ハ決シテ左樣ナ事ニシデ及ブモノデアラマセヌ、無產階級ノ人ガ適法ナル運動ヲスルコトニ向ッテ、決シテ拘束ヲ加ヘルモノデアリマセヌ、故ニ誤解ガ解ケサヘスレバ、彼等ハ悠然トシテチトモ心配セヌヤウニ相成ルコト、思フノデアリマス(拍手起立)

○議長(粕谷義三君) 原夫次郎君

○原夫次郎君登壇

○原夫次郎君 諸君、私ハ只今議題トナシテ居ル法案其モノニ付テハ、全ク白紙ノ意見デアアルノデアリマス、先程來若槻內相ノ答フル所ヲ拜聴致シテ居タノデアリマス、此答辯ニ依リマシテ、又此法案自體ヲ見テ幾多ノ疑問ヲ生ジタノデアアル、ソコデ私ハ是マデ諸君ガ御質問ニシタル以外ノ點ニ付テ茲ニ疑ヲ披瀝致シマシテ、政府當局ノ御答ヲ得タイノデアアル、而シテ私ノ問ハントスル所ノモノハ、多少科學的、法律的ナル疑惑デアリマスカラ、能ク政府當局ニ於テ御留意ヲ願フテ、若シ即時ニ是ガ答辯ガムツカシイト云フコトデアラナラバ、是ハ委員會ニ於テ御答ニナリテモ宜イノデアアル、私ガ質問セル所ハ先何レモ本案ニ付テノ大體論デアアル、先少第一ニ御伺シタイノハ、若槻內相ハ先程來本案ハ極メテ多大ノ注意ヲ拂フテ、法文其モノニハ具體的ナル文字ヲ使用シタノデアアル、隨テ若シ後日ニ於テ裁判官ガ之ニ疑ヲ懷キ、若クハ自分ノ言ウタコト以外ニ於テ裁判ヲ爲スナラバ、ソレハ裁判官ハ非常ナル曲解ヲ爲シ、誤ヲ爲スモノデアルト云フ御答辯ガアツタノデアリマスガ、誠ニ驚入タ話デアアル、裁判官ハ政府提案者ノ提案ノ理由若クハ意見ニ拘束セラル、者デハナイ、從來ノ法律ニ於テモ澤山其例ハアル、結局斯ウ云フヤウナ結果ニ於キマシテハ、大審院ノ判事ガ結局最後ノ權ヲ握ルノデアアル、内務大臣ノ答辯其モノハ、實際問題ニ至レバ、毫末ノ價值ハ無イト云フ結果ニナルノデアアル、ソコデ先ツ私ハ本案ニ付テ第一ニ、本法ノ第一條デハ、國體若クハ政體ノ變革ト、私有財産制度ノ否認トニ依リテ結成スルシタル場合ニ於テ、犯罪ガ構成スル規定デアアル、所デ國家組織ノ大綱ヲ破壞セントスル所ノ、例ヘバ邦土ノ僭竊デアルトカ、或ハ天皇ノ大權ヲ制限セントスル所ノ行爲デア

ルトカ、或ハ立憲政體ノ要素タル帝國議會ノ權限ヲ變更セントスル所ノ事項デアルトカ、或ハ兵役ノ制度ヲ破壞セントスルヤウナ事デアルトカ云フヤウナ、國家ノ大綱ヲ破壞セントスル所ノ事項ヲ目的トシテ結社ヲ爲シタル場合ニ於テハ、何故ニ本法中ニ之ヲ加ヘザリシカト云フコトノ點ヲ御伺致スノデアリマス、此理由ト致シテハ、刑法デハ是等ノ事項ヲ掲ゲテ、而モ此目的ノ下ニ暴動ヲ起サント云フ暴動ヲ目的トセナイト云フト刑法ハ罰セザリシカト云フコトヲ豫備陰謀ハ、何レモ暴動ト云フ其行爲ヲ目的トシテ居ル所ノ豫備陰謀デアツテ、本法ノ結社其モノニ付テハ、刑法デハ之ヲ罰スル規定ガ無い、然ルニ本法ニ於テ第一條ニ於テ三箇ノ目的ヲ限定致シ、而シテ其中ニ是ダケノ大キナ事項ヲ掲ゲル、國家ノ大綱ヲ破壞セントスル事項ニ付テハ、何故ニ本法ニ之ヲ規定セザリシカト云フコトヲ第一ニ伺フテ置ク、唯、以上申述べタヤウナ事柄ヲ今日罰シ得ルノハ、即チ治安警察法ノ第二十七條ニ依テ、秘密結社ヲ爲シタル場合ニ於テ、始メテ之ヲ罰シテ居ルノデアリ、サウスルノ罰則ナルモノハ、御承知ノ如ク僅ニ六箇月以上一年以下ノ輕禁錮デアアル、サウスルト云フト政府ハ本案ヲ提出シテ、十年以下ト云フ重刑ヲ規定シテ居ルニ拘ラズ、治安警察法ニ於テ其秘密結社ノ規定ハ、六箇月以上一年以下ノ規定デアルカラシテ、其間ニ非常ナル懸隔ヲ生ジテ居ル、然ルニ治安警察法ノ改正案ヲ即時ニ出サナイデ、唯、本案ノ此法律ダケヲ出スト云フコトハ、現在ニ於テ刑ノ權衡ヲ得ナイコトノ甚シイモノガアルノデアリ、何故ニ斯ノ如キ矛盾若クハ不公平ナル法律ヲ制定セントスルモノデアルカ、之ヲ先ヅ御伺致スノデアリ、第三點ニハ本法ノ第一條ニ規定シテ居ル所ノ結社其モノハ、行爲トシテ處罰スル規定デアアルノデアリマス、何故ニ此結社前ノ陰謀ヲ處罰スル所ノ規定ヲ置カナカッタノデアルカ、若シ此陰謀ノ規定ヲ置カナイトスルナラバ、此法律ニ依テノ根本ノ趣意ヲ沒却スルモノト謂ハナケレバナラヌノデアリ、一體此場合ニ於テ内務大臣ニ御注意願ヒタイノハ、治安警察法ニ於テハ秘密結社

ヲ處罰スルガ爲ニ、斯ノ如キ比較的輕イ刑罰ヲ以テ臨シテ居ルノハ、即チ此内務警察ノ方デ是ガ取締ヲ爲シ、成ベクノ如キ制罰セシメ、大ニソレ犯罪ハ無イヤウノ如キ御セシメ、警察デ努力ヲ盡シテ居ラネバナラヌ事柄デアアル、然ルニ拘ラズ本法ニ於テハ、此本法ノ趣意ハ、即チ此犯罪ヲ無カラシムルコトヲ政府當局ハ考ヘナケレバナラナイノニ拘ラズ、既ニ結社ヲ爲セバ行力ニ至テハ、非常ナル猛烈ナル勢ヲ持ツ性質ノ犯罪デアルカラ、デアリマスルガ故ニ、若シ眞ニ此法律ノ趣意ヲ徹底スルナラバ、其結社前ニ趨テ、是等ノ陰謀罪ヲ制御スルニ非ズンバ本法ノ本當ノ精神ハ貫クコトハ出來ナイノデアリ、政府當局ハ果シテ此陰謀罪ト云フモノヲ本法ニ處罰規定ヲ設ケナイデ、唯、結社ヲ爲シタル場合ニ之ヲ處罰スルコト云フナラバ、眞ニ之ヲ取締ル意味デアアルカ、實際ニ此結社ノ起テ能事ト爲スモノデアアルカト云フ問デアリマス、

○「ソシナコトヲ言フト辯護士ガ廢テシマフゾ」ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 生方君、御靜ニ願ヒマス

○原夫次郎君(續) 諸君、諸外國ノ例ヲ見テモ、例ヘバ佛蘭西ノ如キ、此犯罪ノ起ラナイ前ニ犯罪ヲ宜シキニ制御セシメ、其後ガ爲ニ、幾多ノ法律ヲ出シテ居ル、其法律ノ中ハ、例ヘバ「バンド」アツシアシオン、ドウ、マルワイトル」ト云フヤウナ法律、此法律ハ即チ本法ノ如キ目的ヲ定メズシテ、而シテ何等ノ事實若クハ目的ヲ問ハズ結社ヲ爲シタルナラバ、秘密結社ヲ爲シテ惡事遂行ノ爲ニ働ク場合ニ於テハ、是非非常ナル嚴罰ニ處スル規定ヲ設ケテ居ル、デアアルカラ其法律ノ中ニハ、社會主義者モ無政府主義者モ總テ取締ガ出來ルコトニナツテ居ル、然ルニモ拘ラズ本法ニ於テハ其根本ノ精神ガ間違テ居ル、既ニ結社サヘシタナラバソレガ犯罪行爲デアツテ、結社セントスル者ノ處罰規定ガナイノハ如何ナル理由デアアルカ、之ヲ御尋スルノデアリ、第四ニハ先程來若槻内相ハ、此第一條ノ政體ヲ變革スルコト云フ事項ニ於テ、若シ貴族院廢止ノ如キ議論ガ出タナラバ、是ハ本法デハ處罰シ

ナイノデアアル、併ナガラ反對ニ若シ今日以後ニ此直接ニ民選議員ガ餘リニ宜シキ行動ヲシナイト假ニ制度ヲ假定スル、世論ニ反スル、ソコト一院制度ヲ採用シテ、寧ろ貴族院ト云フモノハ矢張今日デモ國民ノ代表デアアル、即チ六千萬國民ノ代表デアツテ、若槻内相ノ如キハ貴族院デハ、常ニ貴族院議員ハ吾々六千萬民衆ノ代表デアアルト云フハ如何、貴族院ノ各種ノ種類ノ人ガ各種ノ國民ヲ代表セラレテ居ル、其一院制度ヲ採用シテ、若シ衆議院ヲ廢止スルコト云フヤウナ議論ヲ爲シタル場合ニ於テハ、矢張是ハ本法第一條ノ違犯行爲ニナルカドウカ、之ヲ御尋致シタイノデアリ(ソシナコトヲ言フ者アリ)マア默テ聽キ給ヘ

第五點ハ若槻内相ハ此私有財産制度ノ否認ニ付テ、土地國有論ト云フモノハ是ハ私有財産制度ノ破壞デハナイ、否認デハナイ、是ハ土地私有制度ノ根本ヲ破壞スルモノデナイカラシテ、此法文ニハ當嵌ラナイト云フコトヲ言ハレテ居ッタノデアリ、何故此第一條ノ土地私有制度ノ根本ト云フ文字ヲ此所ヘ入レナイノデアリマスカ、唯、私有財産制度ト云ヘバ、制度ト云ヘバ吾々ノ所有權ノ基礎デアアル所ノ、國家ノ構成要素デアアル所ノ土地制度ノ此私有財産制度ヲ國有ニ移スト云フ、國有ニ移スト云フコトソレ自體ト云フモノハ、私有財産制度ノ否認ニ非ズシテ何デアアルカ第六點ト致シテ、第六點ニハ此法案ノ第一條ノ第一項ノ目的ヲ以テ、其目的タル事項ヲ實行ヲ教唆シタル者ハ、假令本法ニ教唆罪ノ規定ガ無いト雖モ、是ハ刑法ノ規定ニ依テ當然ニ教唆罪デ處刑ヲ受ケルモノデアアル、然ルニ此教唆罪ノ成立ノ上ニ、尙ホ本法ニ於テ第三條並ニ第四條ニ於テモ煽動罪ト云フモノヲ認メテ居ル、此煽動ナルモノハ教唆ヨリカヨリ以上ニ非常ナル此脅威ノ文字デアラナラバ、即チ教唆罪ハ此脅威ノ規定デアアル所ノ如ク、先ヅ犯罪ヲ實行セントスル所ノ者ヲ目當ニシテ、其人ヲシテ犯罪ヲ實行セシムル所ノ意思ヲ注入スルコトデアアル、隨テ教唆罪ノ成立ニハ、教唆シタルハ云ヒナガラ、實際ニ犯罪者ガ犯罪ヲ實行ヲ爲サナケレバ、教唆罪ハ無罪デアアル、教唆罪ハ成立致サナイノデアアル、然ルニ拘ラズ此本法ノ三條並ニ四條ニ於テハ、煽動ナル文字ヲ使テアリマスガ爲ニ、

犯罪者ガ實際其犯罪ヲスルトシナイトニ拘ラズ、唯、或種ノ行爲ヲ爲シ、煽動ヲシタルコトニ依ツテ、直ニ處罰ヲ受ケルノデアアル、極メテ是ハ曖昧ナル文字デアツテ、非常ナル危險ナル文字デアアル、一面ニ於テ刑法ノ當然教唆罪ノ成立スルト同時ニ、更ニ又此煽動ト云フ隱レタル威力ノ、非常ナル脅威ノ文字ヲ使ツテ、後日斯ノ如キ煽動ナル文字ガアルガ爲ニ、裁判官ガ例ヘバ新聞記事ニ「此目ト云フモノハ即チ人ノ頭ノ中ニ隱レテ居ル問題デアアルガ故ニ、此目ト云フコトノ認定セラレ、而シテ唯、一片ノ新聞記事其モノデ以テ煽動デアルトシテ、檢事ガ起訴ヲ爲シ、裁判官ガ之ヲ罰シタル場合ニ於テハ、一體何トスルノデアラウカ、甚ダ危險千萬ナ法文デアアルガ一體何ノ爲ニ斯ノ如キ煽動ト云フ文字ヲ使用シタルノデアアルカ、此點ヲ御伺ヒ致スノデアアル第七ニハ本法ノ第四條ニハ、煽動セラルベキ犯罪ヲ列舉致シテ、騷擾ト暴行、其他生命身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ト云フテ、此中ニ脅迫ト名譽ト云フコトヲ除外致シテアル理由如何、之ガ第七デアアル第一項ノ目的ヲ以テ、其目的タル事項ヲ遂行ノ爲ニ、第四條ニ掲グル騷擾暴行、其他生命身體又ハ財産ニ害ヲ加フルガ如キコト以外ノ手段ニ訴ヘテ、其遂行ヲ爲サシムルコトヲ目的トシテ、第五條ニ列舉スル利益供與又ハ其申込若クハ約束ヲ爲シタル者、又ハ其情ヲ知リテ供與ヲ受ケ、又ハ其要求若クハ約束ヲ爲シタル者ノ處罰規定ノ無いノハ如何ナル理由デアアルカ、之ヲ御伺ヒシタイ、第九ト致シテハ本法ニ規定シテアル所ノ刑罰ノ方面ヲ見ルト云フト、懲役刑ト禁錮刑ト併置致シテアルノデアアル、一體刑法ニ於テ内亂罪ノ如キ、是等ノ犯行ニ對シテハ總テ禁錮刑ダケヲ規定シテ居ルノデアアル、又諸君モ御存知ノ如ク彼ノ犯罪人引渡條約ナル條約ニ於テモ、國事犯ニ付テハ引渡ヲ拒ムト云フ規定ガアル、然ルニ拘ラズ本法ノヤウナ此刑罰規定ニ破壞罪ニ對スル刑罰ヲ以テ臨ム所ノ懲役刑ト併置致シタルノハ、如何ナル理由デアアルカ、是ハ刑法ノ刑罰法規ヲ紊ルモノデアナイカト云フコトノ質問デアアル、第十八本法ニ於テハ何故ニ本法ノ附則ニ於テ即時ニ施行スルト云フ附則ヲ設

ケナカッタルアルカト云フ點アリマス、政府ハ此法案ヲ提出致シテ、此立法ヲ爲サシテ致シテ居ル精神アリマスナラバ、少シモ早く之ヲ制定致サナケレバナラヌ、現ニ今日デモ吾々ノ手許ニ此法案ヲ受取ッタル今日デアル、議院法ニ依テ二日ノ案ヲ晒スコトスラモ避ケテ居ルノデアル、然ルニ拘ラズ本法ノ附則ヲ見ルノデアル、本法ハ公式令ニ依テ公布令ニ依テ二日ノ猶豫アル、猶豫ヲ置イテモ差支ナシト云フ法律ノ立法デアル、吾々ハ其理由ヲ解スルニ苦ムノデアル、第十一ニハ本法附則ニ於テ、大正十二年勅令第四百三十三號ハ之ヲ廢止スト云フ規定ニナッテ居ル、是ハ一體何タル事デアルカ、此勅令ハ一昨年震災ノ場合ニ於テ、緊急勅令ヲ以テ發布ニナッタル所ノ彼ノ流言蜚語ニ關スル法律アリマス、本法ノ如キ國家ノ重大ナル刑罰規定ヲ設ケタルモノトハ違フ、取締ノ一時ノ便宜ノ法律デアル、然ルニ拘ラズ本法ヲ提出スル場合ニ於テ、斯ノ如キ法律ヲ附則ト爲シテ廢止案ヲ規定致シテ居ル、何故ニ政府ハ堂々トシテ此一時ノ四百三十三號ノ法律ハ、法律別ニ之ヲ廢止スト云フコトヲ提案致サナイノデアルカ、是ハ蓋シ本法ガ若シ議會ヲ通過セザル場合ニ於テハ、此四百三十三號ヲ廢止案ガ直ニ通過スルノデアルカラ、ソコデ斯ウ云フ兩天秤ノ規定ヲ爲シテ、附則ト致シタムノデアルト思ハレド、附則ト致シタムノデアル由ニ基テ斯ノ如キ事ヲ致シタルノデアルカ、最後ニ一體本法ノ主管ハ内務省デアルカ、司法省デアルカ、是ハ極メテ重大ナル刑罰規則デアルカ、唯一時ノ取締規則デハナシ、國體ヲ變革シ、若クハ政府ヲ變革スル無政府主義者ヲ取締ルト云フ重大ナル法律案デアル、然ルニ此提案ノ理由ヲ見マスルト云フト、唯、政府ハ一時ノ帝國ノ治安ヲ案目スルヲ以テ、不穩ナル行動ニ出デントスル者ヲ取締リスル爲デアルト云フヤウナコトヲ申シテ居ルノデアリマスガ、本法ニ規定シテアル所ノ第一條ノ此事項ガ若シ實際ニ發生シ、若クハ實際ニ本法規定ノ第二條、第三條ノ規定ガ假ニ——斯ノ如キ不祥事ハ無イニ致シマシテモ、若シ起リタト致シマシタナラバ、ソレコソ大變ナコトデアル、其場合ニ於テ勝テバ官事敗レバ賊デ、假政府ガ出來

ルト云フヤウナ重大ナコトニ——サウ云フコトハ斷ジテナイノデアリマスナラバ、法律ヲ審議スル場合ニ於テハ、ソコモデ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ、然ルニ斯ノ如キ法律ヲ内務省ガ提案ヲ致シ、實際ニ於テ斯ノ如キ事項ヲ取締リスルト云フノハ、此事實ノ現レナイ前ニ於テ、斯ノ如キ思想ヲ取締リ、斯ノ如キ事實ヲ起ラザランコトヲ制禦スルト云フ眞ノ希望ガアルト云フコトヲアリマスナラバ、内務當局ノ御手許ヲ拜見セザルヲ得ナラバ、内務當局ノ御手許ハ如何デアル、我が日本ノ警察ノ遺方ハ如何デアルカ、幾ラ無暗ニ理想ノ法律バカリ雨ノ如ク降ラシメモ、之ヲ實際ニ行フ所ノ警察官宜シキヲ得ナイ場合ニ於テハ、人權ハ蹂躪セラレ、國家ハ却テ其爲ニ亂レノデアル、現ニ般鐵道カラズ、一昨年ノ彼ノ大外レタ大逆事作ノ發生ヲ致シタノハ如何デアリマス、之ヲ取締ラザリシ所ノ此事實ヲ未然ニ防ガナケタノハ、我警察ノ怠慢デハアリマセヌカ、幸ニモ彼ノ時ニ——幸ニモ彼ノ時ニ攝政殿下ニ於カセラレシテハ、彼無難デアタノデアリマスナラバモ、彼ノ無難ニアラズ一朝事有ル場合ニ於テハ我が警察ガ斯ノ如キ事ヲ爲シタト言ハレモ仕方ガナイデハナシカ、之ヲ未然ニ防グコトガ出來ナカッタノデアアル、又昨年ノ十一月三日ノ出來事デアル、監視廳ニ於テハ豫メ攝政殿下ノ參内ノ御警護ヲ爲サナケレバナラナイ御通知ヲ受ケテ居タノデアアル、然ルニ攝政殿下ノ御出門前、僅ニ三分ヤ五分前ニ其事實行知ッタト云フコトデアル、ソコデ若槻内相ハ——若槻内相ハ幸ニモ御警備申上ゲルコトノ任務ハ盡シ得タト云フコトデアアルケレドモ、斯ノ如キ事ハ何タル失態デアリマセウカ、蓋シ當時ニ於テ若槻内相其者モ、攝政殿下ノ御手許ハ恐懼措ク所ヲ知ラズトシテ、辭表ヲ捧呈若クハ進退伺ヲ出サレタニ相違ナイト思フ、若槻内相ノ御手許ノ準備ハ、斯ノ如キ我國ノ警察狀態デアアル、然ルニコンナ法律タケテ立派ニ作ッテ置イテ、之ヲ實際ニ行フ所ノ者ガ、斯ノ如キ若槻内相配下ノ警察官デアルトスルナラバ、吾々人民ハ之ニ對シテ危懼ノ念ヲ懷カズシテ何ト申シマセウカ、要スルニ以上ノ點ニ向ッテ十分ナル御答辯ヲ得タイノデアリマス

○議長(柏谷義三君) 小川司法大臣 (國務大臣小川平吉君登壇) ○國務大臣(小川平吉君) 原君ノ御質問ニ御答申サス、第一條ニ於テ原君ノ御質問ハ、邦土ノ借竊或ハ天皇ノ大權ヲ制限スルト云フ種類ノ事柄ヲ何故處罰セヌカ、斯樣ノ御趣意ト承知致シマシタガ、本法ハ國家ノ根本ヲ案ル所ノ者ヲ罰スルト云フ考デアリマス、即チ國體ヲ變革シ若クハ立憲君主政體ヲ變革スルト云フ如キ、此根本ノ問題ニ對シテ特別ニ重キ刑罰ヲ設ケテ處分スルト云フ趣意デアリマス、其部分々々ノ事ニ付テハ、今日之ニ對シテ特別ニ重キ刑罰ヲ科スル必要ヲ認メテ居ラヌノデアリマス、第二ハ今日ノ治安警察法ノ罰則、今日ノ治安維持法ノ罰則トノ刑罰ガ甚シキ相違ガアリテ權衡ヲ失スルト云フ風ナ御趣意ト承リマシタ、今日ノ治安警察法ノ規定ニ依リマシテハ、先刻來内務大臣ヨリ續々述ベマシタルガ如ク、此危險ナル行動ヲ防止スルコトガ出來ナイノデアリマス、故ニ治安警察法ノ輕キ處罰ノ規定アルニモ拘ラズ、殊更特別ニ法律ヲ設ケテ重キ刑罰ヲ科シ、仍テ此危險ナル行動ヲ防止シタイ、斯樣ナ考デアリマスナラバ、此間ニ刑罰ノ長短ニ甚シキ差異ノアルト云フコトガ、即チ本法ノ特色トスル所デアルト御承知ヲ願ヒマス(拍手) 第三ハ本法ハ結社ヲ罰スルガ、結社ノ前ニ陰謀ヲシタ場合ヲ何故罰セヌカ、斯ウ云フ御趣意ノヤウニ承リマシタガ、是ハ第二條ヲ御覽ニナリマスルト、此國體政體ノ變革若クハ私有財產制度ノ否認ヲ目的トシテ、其實行ヲ協議シタル者ヲ罰スルトアリマス、苟モ實行ノ目的ヲ以テ實行ヲ協議ヲ致セバ罰スルノデアリマス、陰謀デアルト陽謀デアルト問フ所ニ非ズ、總テ謀議シタル者ヲ罰シテ居リマスナラ、此點ハ御安心ニナッテ宜カラウト思ヒマス(拍手) ソレカラ第四ノ刑罰ニ關係スルコトデアリマス、是ハ先刻來内務大臣ヨリ御答ヲ申シタ通りデ御質問ノ如キ事柄ハ無論本法ノ制裁ヲ受クルモノデハゴザイマセヌ、第五ハ此所有制度ノ一部分ノ變更ヲスルコト、即チ例ヘバ土地ノ國有トスルト云フガ如キコトハ、本法ノ規定ニ係カルカドウデアアルカト云フ御尋ト承知致シマシタガ、是ハ財產制度ノ一部分ノ變更デアリマスナラシテ、無論本法ノ制裁ヲ受クルモノデハナイノデアリマス

ス、本法ハ即チ財產制度ヲ根本ヨリシテ否認スル、法文ニアリマス通り私有財產制度ヲ否認スル、所謂共產主義ヲ罰スルノデアリマシテ、其一部分々々ノ所有權ノ方法ヲ法律ヲ以テ變更スル如キコトハ、無論本法ニハ係カラナイノデアリマス、第六ハ煽動ヲ何故罰スルカ、教唆ノ程度マデ行カナイ者ヲ何故罰スルカ、斯ウ云フ御質問ト承知致シマシタガ、之ガ即チ本法ノ特色デアリマス、共產主義ヲ鼓吹シテ之ガ實行ヲ圖ルト云フガ如キ事柄ハ、或ハ人ヲ殺ストカ、叩クトカ云フ、犯罪ヲ教唆スル場合トハ違フノデアリマス、此主義ヲ實行スル目的ヲ以テ、其實行ヲ人ニ煽動スルト云フコトガ、即チ國家ニ非常ナル危害ヲ及ボスノデアリマス、之ヲ取締リマセヌケレバ、段々ト全國ニ互ッテ此共產主義ガ蔓延シテ、十分ニ人心ヲ惡化シテシマセヌカ、後ニ至ッテハ、如何トモ致方ガナイ、故ニ實行ヲスル考デ、其目的ヲ以テ其實行ヲ人ニ煽動スレバ、之ヲ罰スルト云フコトガ今日ノ時代ニ於テ最モ必要ヲ感ジテ居ル次第デアリマス(拍手) 何レ秘密會ニ於テ段々ト御話ヲ申上ゲタイト考ヘテ居リマス、今日澤山ナ文書ニ依ッテ、此犯罪ヲ犯シタ者、目前我國ニ於テ最モ取締ノ必要ヲ感ズルノハ、即チ此實行ノ目的ヲ以テ實行ノ煽動ヲシテ居ル者ガ一番酷イノデアリマスナラ、教唆罪ヲ罰スル事柄トハ、全然本法ハ別段ノ趣意ヲ持テアルノデアリマス、ソレカラ第七ハ暴行、騷擾、其他生命財產ニ對シテ、此共產主義等ヲ實行スル目的ヲ以テ、害ヲ加ヘルヤウナ煽動ヲシタル者ヲ罰スルト云フコトニ付テ、名譽ヲ毀損スルコトヲ煽動シタル場合ニ何故罰セヌカ(脅迫モ)ト呼フ者アリ(脅迫モ)、名譽毀損ト云フ事柄ハ、比較的間接デアッテ、今日ノ場合ハ直接ニ生命財產等ニ危害ヲ加フベク煽動スル分ガ一分番恐ルベキ狀態デアリマスナラ、故ニ其點ヲ罰シテ、名譽若クハ脅迫ニマデ及バナカッタ次第デアリマス、成ベクハ狹クスル所ノ考ヲ以テ、斯樣ニ甚シク恐ルベキ分ダケニ對シテ、本法規定シタ次第デアリマス、第八ハ忘レマシタガ簡單ニ一寸…… ○原次郎君 第八ハ御手許ニアル第五條ノ第一條第一項ノ目的ヲ以テ、其目的タル事項ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トスル犯罪

其モノガ、之ニ脱カッテ居ル、ソレハ何故
脱カッテ居ルコト云フコトデアリマス、委
員會デモ宜シウゴザイマス

○國務大臣(小川平吉君)(續) ソレデハ委
員會申上デマス、第九ハ本法ニ禁錮ノ外
懲役ノ刑ヲ設ケタルハドウカト仰シヤル、
是ハ本法ノ犯罪ノ中ニハ、懲役ヲ以テ科スル
ノ相當デアリス、犯罪ガ澤山アルノデア
リマス、故ニ懲役ト云フ刑ヲ設ケタル、第十
ニ依ッテ、公布ノ日ヨリ二十日、第十一ハ震
災ノ場合ニ發布ニナリマシタル勅令第四百三
號、之ヲ廢スルノニ附則トシテ廢シタルハ、
甚ダ不都合デアリカノ如キ御口吻ニ伺ヒマ
シタガ、是ハ本案ヲ出シマス以上ハ、彼ノ
勅令ハ必要ニナリマスカラ、附則トシテ
之ヲ消滅セシムル譯デアリマス、又原君ハ
萬一本法ガ成立致サナカッタ場合ニハ、此
勅令ヲ活カス考デアリタノデハナキカト云
フ御話デアリマシタガ、別段左様ナ考ヲ持
テ譯デモアリマセヌ、併ナガラ假ニ否決ニ
ナリマスレバ、矢張勅令ハ活キテ存續スル
結果ニナルデアリマス、當局者トシテハ
別ニ左様ナ考ヲ持ッテヤ、譯デハナキ、當
前ノ法律ノ例文トシテ今日新法ヲ出シタ
場合ニハ、舊法ノ效力ヲ失ハシメタルコト
合ニハ、附則ヲ以テ之ヲ規定スルコトガ最
モ相當デアルト考ヘテヤ、タ次第デアリマ
ス、第十二ハ所管ノ問題、是ハ内務省、司
法省、兩省ノ所管ニナリテ居ル次第デアリ
マス、其他警察官云々ノコトニ付テ御話ガ
アリマシタガ、是ハ御質問トハ認メマセヌ
カラ、答辯ハ申上デマセヌ(拍手)

○議長(粕谷義三君) 山口政二君

(山口政二君登壇)

○山口政二君 多數ノ質疑者モゴザイマシ
タカラ、重複ヲシナイ程度ニ於キマシテ、
要領ヲテ御質疑致シタイト思ヒマス、第
一ハ若槻内閣ノ提案ノ御説明ニ依リマス
ト、日露國交ガ恢復致シマシテ、彼我ノ往來
ガ盛ニナルカラ云々ト云フコトガゴザイマ
シタ、多分之ガ一ツノ動議ヲ爲シテ此法案
ヲ提案スルニ至ッタルコト考ヘマスガ、第
一條ニ於キマシテ私有財産制度ノ否認ト云
フコトハ、共產主義ノ實行ダト斯ウ云フ風
ニ御説明ニナリテ居リマス、シテ見ルト政府
ハ我國ニ於キマシテ共產主義ガ實行サレル

モノデアルト信ジテ居ルヤウデアリマス
ガ、是ハ御承知ノ通り露西亞ニ於キマシテ
モ、新經濟政策ニ於テハ共產主義ヲ實行シ
テ居リマセヌ、故ニ私ハ若モ之ガ一ツノ提
案ノ理由デアラナラバ、我國ニ於テハ共產
主義ノ實行ヲセラルル虞ハ無イト信ズルガ
故ニ、第一條ノ私有財産制度ノ否認ト云フ
ヤウナ言葉ハ、全く無用ノ言葉デアルト信
ズルノデアリマス、此點ニ付キマシテ若槻
内閣ノ御所見ヲ更ニ御伺ヒ目シデアリマス
ガ、是ハ秘密結社ノ取締及思想宣傳ノ取締
ト解釋シテ宜イデアリマセウカ、秘密結
社ノ事ニ付キマシテハ、他ノ議員諸君ヨリ
既ニ御質問ガゴザイマシタガ、私ハ思想宣
傳ノ取締ト解釋シテ宜キヤ、御尋致シマ
ス、例ヘバ煽動ト云フ言葉ハ大密院ノ判例
ニ依リマス、他人ノ感傷ヲ利用シテ主義
ヲ宣傳スルモノデアルト云フコトニナリ
居リマス、然ルニ政府トシテハ此議場外ノ
御説明デアリマシタレドモ、煽動ハ宣傳
ニ非ズト云フテ居ラレドモ、煽動ハ宣傳
例ニ依リマス、シテ見ルト此第三條ニ
依ッテ言論機關其他社會運動家、是等ノ多
クノ者ガ此煽動ト云フ言葉ヲ爲シ、其取締
ヲ受クルコトニナルデアリマス、サウシ
マス、煽動トハ宣傳ニ非ズト云フ御説明
デアリマス、ケレドモ、此點ニ付キマシテ茲
ニ明確ナル御答辯ヲ煩シタイノデコザイマ
ス、第三點ハ此法律ヲ提案スルニ至リマシ
タ必要デアリマスガ、政府ハ之ヲ秘密ニ
於テ説明スル、若クハ委員會ニ於テ説明ス
ルト云フ御答辯デアリマスガ、此法案ノ提
出ノ必要ハ何デアルカ、如何ナル程度ヨリ
ノデアルト云フコトハ、宜シク政府ヨリ
公明正大ニ御發表ニナルノガ却テ宜イト云
フコトヲ信ズルノデアリマス、此點ニ付キマ
シテ、政府ノ御所見ヲ御伺ヒ致ス次第デア
リマス、第四ハ此法案ノ影響デアリマス、
二付キマシテハ既ニ他ノ諸君ヨリモ御尋ガ
アリマシタケレドモ、其トシヨリモ御尋ガ
フモノガ免レテ、眞面目ナル社會運動ガ阻
止セラレルヤウナコトニナリハシナイカ、
其二ハ政體ノ變革ヲ禁止シテ居ルノハ、他
ノ諸君ガ屢、御尋シタヤウニ、之ガ爲ニ政治
ノ進歩進退ヲ阻止スルノ結果トナリハシナ

イカ、其三ハ政府ハ此法案ノ第一條ヲ以
テ、私有財産制度ト云フ言葉ヲ恰モ金科玉
條、絕對ニ眞理ナルガ如ク裏書ヲサレドモ、
ルヤウニ見エシメシテ政府ハ私有財産制度
點ニ付キマシテ果シテ政府ハ私有財産制度
ヲ金科玉條ナリトシテ誤ラザル眞理デア
ト云フ意思ヲ持ッテ居ルノデアリマスカ
ウカ、是ハ將來ニ於テ屢、立法手段ヲ以テ
ル所ノ社會政策運動、是等ニ非常ナル關係
ガアリマスガ故ニ、特ニ政府ノ御所見ヲ御
伺ヒタイノデアリマス、最後ニ此法案ハ第
一條ニ於キマシテ無條件ニ其運動ヲ取締
ナルノデアルカ、他ノ諸君ノ御質疑ニモア
リマシタケレドモ、立法手段ヲ以テスル合法
ノ政體變革ヲモ取締ルノデアルカ、例ヘバ
政體變革ヲモ取締ルノ立法手段ヲ以テス
ル場合、私有財産制度ニ付テ立法手段ヲ以
テ一部ヲ否認スル、若クハ制限ヲスルト云
フヤウナコトヲモ取締ルノデアルト云フ
コトヲ御尋致シタイノデアリマス、以上ヲ
以テ私ノ此質疑ヲ打切りマス

○議長(粕谷義三君) 若槻内務大臣
(粕谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代
リ著席)

(國務大臣若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 御質問ノ第一
點ハ、今日ノ露國政府ノ共產主義ト云フテ
モ、新經濟政策ヲ執ッタル爲ニ若干ノ私有
認メテ居ルノデアルカラ、日露ガ往來ヲ頻
繁ニシタ所ガ、政府ノ憂フルヤウナ共產主
義ノ傳播ハ無イト思フガドウカト云フ御質
問デアリマス、私有財産制度ノ否認ト云フ
ノハ、大體ニ於テ私有財産制度ノ根本的破
壞ト云フノデアリマス、ソレ故ニ私有財産
制度ノ制度ノ認メナイト云フ中ニ、唯々自
ラ働イテ得タル果實ハ其者ノ所有デアル、或
ハ身邊身廻リノ衣類等ハ其者ノ所有デア
ルト云フ位ナコトガアリマシテモ、ソレハ私
有財産ノ所有タルコトヲ妨ゲナイデアリマ
ス、即チ今日ノ露國ニ於テ行ハレタル共
產主義ハ、現行法律ニ只今私有財産制度ノ否
認トシテ取締ラントスル所ノモノニ正シ
ク當ッテ居ルノデアリマス、第二ノ御質問
ト云フ御質問デアリマス、煽動ト云フノハ
ハ、煽動ト云フノハ宣傳ト同一デハナイカ
ト云フ御質問デアリマス、煽動ト云フノハ
其事ヲ爲ス者ガ其事ヲ意識シテ爲シ、更
ニ其事ノ實現スルコトヲ期待シ希望シテ、
他人ニ之ヲ勸メルト云フコトデアリマス、

ソレデアリマスカラ、唯々事實ヲ流布シタ
トカ、唯々事實ヲ宣傳シタト云フノハ、第
三條ノ「煽動」ノ中ニハ入ラズノデアリマ
ス、第三ノ御質問ハ、此法律案ヲ提出スル
ニ付テハ、海ニ危險ナル事柄ガ澤山アル、
ソレハ委員會等デ能ク説明スルコトヲ言
タガ、却テサウ云フ事ハ此公開ノ席上デ發表
シタガ宜クハナイカト云フ御質問デアリマ
ス、併ナガラ事柄事體ノ性質ニ考ヘマスル
ト、斯様ナ公開ノ席上デ一々申述ヘルコト
ハ私ハ宜シクナラヌと思フテ居リマス、説明
ヲシナケレバナラヌナラバ、秘密會議ヲ御
間キニ相成リタイシ、又委員會ニ於テ秘密
會議ヲ御開キニナレバ、十分此事實ハ説明
スル積リデアリマス、ソレカラ本案ガ若シ
成立シタ場合ニ於ケル影響トシテ、眞面目
ナル社會運動ヲ妨グルコトガアリハセヌカ
ト仰セニナリマシタガ、前ニ申上デマシタ
通りニ、本案ハ國體ヲ變革スル、政體ヲ變
革スル、私有財産制度ヲ破壞スルト云フ事
柄ヲ取締ルノデアリマシテ、眞面目ナル社
會運動ニハ何等關係アリマセヌカラ、眞面
目ナル社會運動ハ、決シテ之ガ爲ニ妨グル
ル、コトハ無イノデアリマス、影響ノ第二
點トシテ、政體ニ付テハ色々研究スルコト
ガ必要デアルケレドモ、サウ云フ事ヲ阻
止スルヤウナコトガアリハセヌカト云フ、
仰セデアリマシタ、政體ヲ破壊スル、變革
スルト云フコトノ實行ニ付テハ結果ヲスル
實行ノ相談ヲスル、ソレヲ煽動スル、ソレ
ガ爲メニ生ズル重大ナル犯罪ヲ煽動スル
ト云フヤウナコトハ取締リマス、ケレドモ、政
體中ノ一部ニ付テ、殊ニ私ハ此「政體」ト云
フ言葉ニハ含マレテ居ナイト申上ゲル所ノ
今日ノ憲法上ノ統治組織ノ一部等ニ付テ研
究ヲ致シマスコトハ、決シテ此法律ガ制定
セラレマシテモ關係ハ無イノデアリマス、
ソレカラ最後ノ御尋ハ私有財産制度ノ否認
ト云フコトニ大變重キヲ措イテ居ルガ、一
體今日ノ財産制度ト云フモノハ、是ガ一番
良イノカ、或ハモット良イ制度ガアルカモ
知レヌ、ソレヲ政府ハ之ヲ金科玉條ト見テ
居ルカ、斯ウ云フヤウナ意味デアッタヤウ
ニ思ヒマス、若シ私ガ只今申上ゲタルガ誤
解デアレバ別問題デアリマスガ、若シ其意
味デアリマスナラバ、今日ノ日本ノ社會組
織ノ根本、經濟組織ノ根本ハ、私有財産制度
在リト見テ居ルノデアリマス、之ヲ否認ス

頁段行	二九八	二	三七	蠶絲製造	誤
	二九	一	一五	食イ物	
同	二	二	一七	蘭絲課	
同	二	二	一七	出來ス	
三一	二	一	一九	困難	國難
三一	四	三	四	「フイツシャ ーガ」	「フツシャ ーガ」
三一	五	三	二七	東華塾	桃花塾